



海外視察調査報告書 2011

米国東海岸周辺地域の ボーディングスクールにおける スポーツ教育の実態

筑波大学体育センター SPERTプロジェクト

松田裕雄 金谷麻理子 桐生習作 武田丈太郎
斎藤克明 向後佑香 小倉晃布

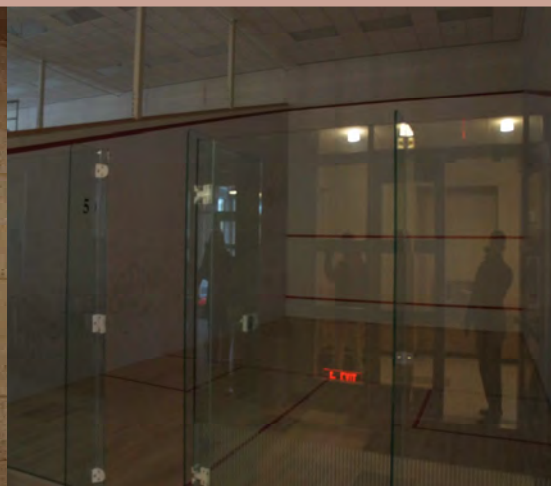


Berkshire





Suffield Academy



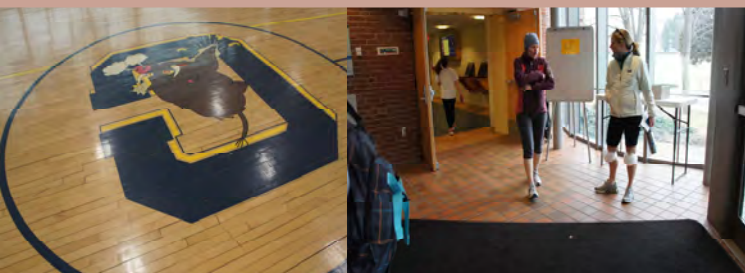


The Taft School





Choate Rosemary Hall



G Basketball Weightlifting Program

McDon

Wor

Wolke, Walter

Ward, English

groups from the first exercise through the last to order. For women a 1/2 mile and a 1/2 mile run. The first mile will be spent

Day 13

Day 14

Day 15

Day 16

Day 17

Day 18

Day 19

Day 20

Day 21

Day 22

Day 23

Day 24

Day 25

Day 26

Day 27

Day 28

Day 29

Day 30

Day 31

Day 32

Day 33

Day 34

Day 35

Day 36

Day 37

Day 38

Day 39

Day 40

Day 41

Day 42

Day 43

Day 44

Day 45

Day 46

Day 47

Day 48

Day 49

Day 50

Day 51

Day 52

Day 53

Day 54

Day 55

Day 56

Day 57

Day 58

Day 59

Day 60

Day 61

Day 62

Day 63

Day 64

Day 65

Day 66

Day 67

Day 68

Day 69

Day 70

Day 71

Day 72

Day 73

Day 74

Day 75

Day 76

Day 77

Day 78

Day 79

Day 80

Day 81

Day 82

Day 83

Day 84

Day 85

Day 86

Day 87

Day 88

Day 89

Day 90

Day 91

Day 92

Day 93

Day 94

Day 95

Day 96

Day 97

Day 98

Day 99

Day 100

Day 101

Day 102

Day 103

Day 104

Day 105

Day 106

Day 107

Day 108

Day 109

Day 110

Day 111

Day 112

Day 113

Day 114

Day 115

Day 116

Day 117

Day 118

Day 119

Day 120

Day 121

Day 122

Day 123

Day 124

Day 125

Day 126

Day 127

Day 128

Day 129

Day 130

Day 131

Day 132

Day 133

Day 134

Day 135

Day 136

Day 137

Day 138

Day 139

Day 140

Day 141

Day 142

Day 143

Day 144

Day 145

Day 146

Day 147

Day 148

Day 149

Day 150

Day 151

Day 152

Day 153

Day 154

Day 155

Day 156

Day 157

Day 158

Day 159

Day 160

Day 161

Day 162

Day 163

Day 164

Day 165

Day 166

Day 167

Day 168

Day 169

Day 170

Day 171

Day 172

Day 173

Day 174

Day 175

Day 176

Day 177

Day 178

Day 179

Day 180

Day 181

Day 182

Day 183

Day 184

Day 185

Day 186

Day 187

Day 188

Day 189

Day 190

Day 191

Day 192

Day 193

Day 194

Day 195

Day 196

Day 197

Day 198

Day 199

Day 200

Day 201

Day 202

Day 203

Day 204

Day 205

Day 206

Day 207

Day 208

Day 209

Day 210

Day 211

Day 212

Day 213

Day 214

Day 215

Day 216

Day 217

Day 218

Day 219

Day 220

Day 221

Day 222

Day 223

Day 224

Day 225

Day 226

Day 227

Day 228

Day 229

Day 230

Day 231

Day 232

Day 233

Day 234

Day 235

Day 236

Day 237

Day 238

Day 239

Day 240

Day 241

Day 242

Day 243

Day 244

Day 245

Day 246

Day 247

Day 248

Day 249

Day 250

Day 251

Day 252

Day 253

Day 254

Day 255

Day 256

Day 257

Day 258

Day 259

Day 260

Day 261

Day 262

Day 263

Day 264

Day 265

Day 266

Day 267

Day 268

Day 269

Day 270

Day 271

Day 272

Day 273

Day 274

Day 275

Day 276

Day 277

Day 278

Day 279

Day 280

Day 281

Day 282

Day 283

Day 284

Day 285

Day 286

Day 287

Day 288

Day 289

Day 290

Day 291

Day 292

Day 293

Day 294

Day 295

Day 296

Day 297

Day 298

Day 299

Day 300

Day 301

Day 302

Day 303

Day 304

Day 305

Day 306

Day 307

Day 308

Day 309

Day 310

Day 311

Day 312

Day 313

Day 314

Day 315

Day 316

Day 317



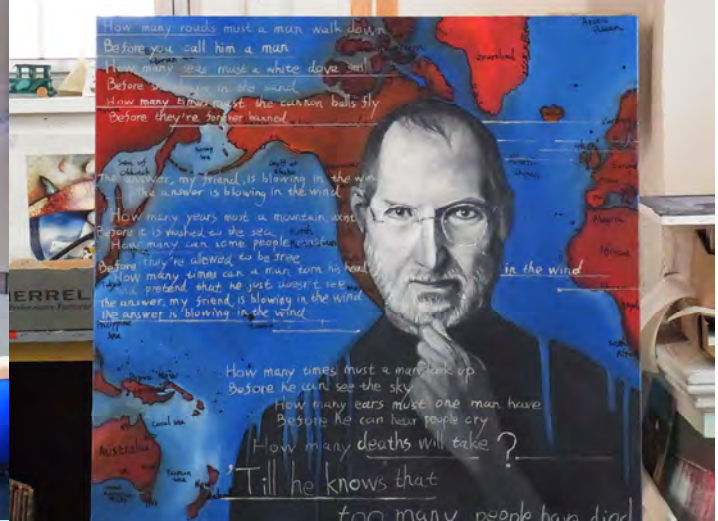
Cheshire Academy





Deerfield Academy





Wilbraham & Monson Academy



米国東海岸周辺地域のボーディングスクール におけるスポーツ教育の実態

【1】活動概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査実施者	1
4. 世話人および協力	1
5. 日程	2
【2】ボーディングスクールの概要	3
1. 特色	4
2. 教育理念とシステム	6
3. 運営	9
4. 経営体制	11
【3】ボーディングスクールにおける教育体制	12
1. Body (Sports)	13
① 教育理念・方針	15
② ボーディングスクールの教育システム	17
③ スポーツマンシップ	27
④ スポーツ教育	29
⑤ アスレチック・ディレクター	42
⑥ コーチ	43
⑦ 教員	50
2. Mind (Academic)	57
3. Spirit (Social)	61
【4】総評	64
【5】参考資料	70
1. NEPSAC倫理・行動規範	71
2. 午後プログラム (AFTERNOON PROGRAM)	75
3. 2011-2012年度チェシャー・アカデミー運動競技部門方針変更	77
4. チェシャー・アカデミーにおけるコーチへの期待	78

活動概要

目的

- ・日本戦後教育改革に影響を及ぼしたアメリカのスポーツを通じた教養教育から示唆を得ること
- ・スポーツを通じた教養教育を重視するボーディングスクールから示唆を得ること

調査対象者

- ・アスレティックディレクター
- ・ヘッドマスター（校長）
- ・アドミッションディレクター
- ・学生

調査実施者

松田裕雄
筑波大学体育センター 講師

桐生習作
筑波大学体育センター 特任助教

金谷麻理子
筑波大学体育センター 准教授

武田丈太郎
筑波大学体育センター 特任助教

世話人および協力

斉藤克明
株式会社イーコンシェルジュ代表取締役：現地案内

向後佑香
筑波大学大学院人間総合科学研究科研究員：後方支援

小倉晃布
日本中央競馬会 競馬学校 非常勤講師：報告書作成

日	内 容
2/13 (月)	【視 察・ヒアリング】 ○ Berkshire ○ Suffield Academy
2/14 (火)	【視 察・ヒアリング】 ○ The Taft School ○ Choate Rosemary Hall
2/15 (水)	【視 察・ヒアリング】 ○ St. Thomas More School ○ Cheshire Academy
2/16 (木)	【視 察・ヒアリング】 ○ Deerfield Academy ○ Wilbraham & Monson Academy



【現地視察メンバー：左より桐生習作・斎藤克明・金谷麻理子・松田裕雄・武田丈太郎】

【2】ボーディングスクールの概要

1. 特色

1) ボーディングスクールとは・・・

生徒の多くが寮で生活し、大半の教師も寮あるいはキャンパス内の住宅に住み込んで生徒と寝食を共にし、厳格な規律の下、スポーツ・文化・芸術・社会奉仕・リーダーシップ教育にかなりの重点を配分し、徹底した少人数クラスでの個別教育を行う六年制（中・高一貫）あるいは四年制（高校）の、いかなる政府、自治体宗教団体の財政援助も束縛も受けない私立の独立財政の中等教育学校。

◇Point◇ ボーディングスクールはプルアップ教育の場

プルアップ教育方法とは、ごく一部のそれを望む生徒のみを集めて、将来いずれかの分野で原理や理念を創造する指導者となるように教育して世に送り出すことにより、そのような教育を受けてこなかった人々に対してエリート教育の成果を還元し、社会全体を引っ張

～ ボーディングスクール 6つの特色 ～

- ・親元から切り離し、厳格な規律下での24時間体制
- ・スポーツ教育
- ・個々の得意分野を伸ばす少人数教育
- ・芸術、音楽分野の文化創造教育
- ・自己抑制力とリーダーシップ養成教育
- ・社会の奉仕者となるべく社会奉仕精神の養成

2) ザ・テン・スクールズ

ボーディングスクールのうち、設立が古く、特に権威のあるものは「ザ・テン・スクールズ」(The Ten Schools) と呼ばれている。

・Choate Rosemary Hall（チョート・ローズ・マリー）

1890年創立。全米44の州、世界34か国から生徒が集まる。開設科目数は250にも達し、環境微生物学、宇宙物理学、行政学など多岐にわたっている。ジョン・F・ケネディ大統領の出身校。

・Deerfield Academy（ディアフィールド・アカデミー）

1779年創立。数学系のコースが充実しており、大学レベルのコースも多い。ゴールドマン・サックス投資銀行の元会長ジョン・ワインバーグの出身校。

・The Hill School（ヒル・スクール）

1851年創立。男子校で5年間の一貫教育が行われている。駐日米大使ベーカー元財務長官、有名なタイヤメーカーファイアストンの創業者レイモンド・ファイアストンなどの出身校。

・The Hotchkiss School（ホチキス・スクール）

1891年創立。12の運動場、9ホールのゴルフコース、スイミングプール、アイスホッケーリンク、テニスコート、スカッシュコートなどの競技施設を有している。ボルドリッチ元商務長官、フォード社のヘンリー・フォード2世等の出身校。

・The Lawrenceville School（ローレンスビル・スクール）

全米40州、世界27か国から生徒が集まっている。開設科目数は約300で、すべての学校、建物がコンピューターネットワークにつながれ、ライブラリーには約10万冊が所蔵される。フォーブス誌の創刊者マルコム・フォーブスの出身校。

・The Loomis Chaffee School（ルーミス・シャフィー・スクール）

寮生4人に対し住み込み教師1人という比率を維持。教職員の85%が寝食を生徒と共にしている。

・Phillips Exeter Academy（フィリップス・エグゼター・アカデミー）

1781年創立。全米46の州及び世界30の国々から約千人の生徒が集まっている。教職員のうち65%は修士号取得者、17%は博士号取得者。ワシントンDCの連邦議会関係機関とも連携を結び、議会活動を体験させるインターンシップ制度がある。

・Phillips Academy Andover（フィリップス・アカデミー・アンドバー）

1778年創立。アメリカ最古のボーディングスクールの1つ。教職員のうち3分の2が博士号取得者。ジョージ・ブッシュ親子の出身校。

・St. Paul's School（セント・ポールズ・スクール）

1856年創立。バンダービルド、メロン、モルガン等のアメリカの財閥の子弟が通っていたことで有名。三菱商事の榎原稔元会長も卒業生。2千エーカーの森林、草原、池などからなる大きなキャンパスを有している。また、生徒5人に対し教職員1人という比率を誇る。28のスポーツチームが学校対抗試合に臨み、クラブ活動は67に達する。全生徒、全教師がキャンパスに住んでいる。

・The Taft School（タフト・スクール）

第27代タフト大統領の兄弟によって1890年創立。図書館には5万4千冊の蔵書があり、コンピューターラボ、ランゲージラボ、芸術・文化活動センター、劇場が2つ、ダンススタジオ、18の完全なゴルフコース、テニスコート（室内×4面、屋外×12面）、アイスホッケーリンク、スカッシュコート×11面、ウェイトトレーニングルーム、ランニングトラック、運動競技場×15面。

2. 教育理念とシステム

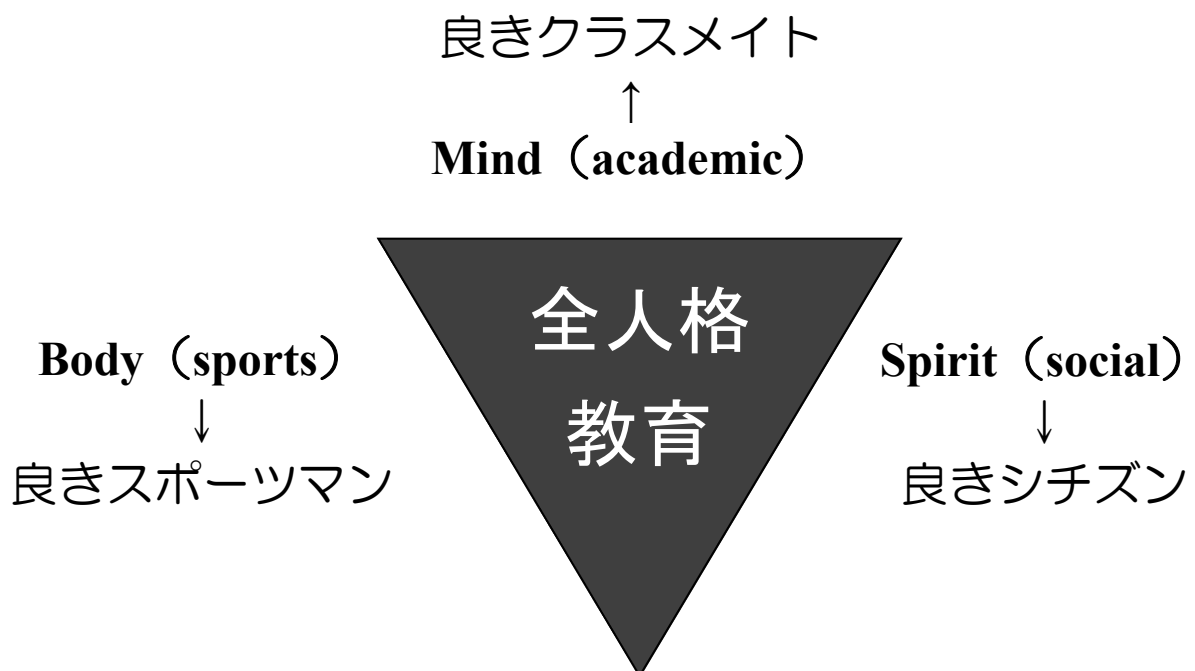
1) ボーディングスクールの教育理念

- ①各自の独自性の発見 (Find your own uniqueness.)
- ②成功の各自定義の確立 (Define your own success.)

ほとんどの生徒は当校に入学してくる時に、ほかの同学年の生徒と色々な面で同じようでありたいと希望している。そして親も自分の子どもがほかの生徒と比べて同じであってほしいという気持ちが強い。しかし当校の教育の目的は、生徒一人ひとりがほかの生徒とは違うのだということを認識してもらうことにある。学校教育の一番重要な目的の一つは、生徒一人ひとり自分自身のユニークネス（独自性）を見つけることを助けることにある。もう一つ、当校の学校教育の理念であり目的の一つで重要なものがある。それは生徒一人ひとりが自分自身にとっての人生における“成功”の定義を見つけることだ。学校が人生の成功は何かという定義を決めるのではない。学校はあくまでも生徒一人ひとりが自分にとっての成功の定義を見つける手助けをするところである。

The Williston Northampton School デニス・グラブス校長

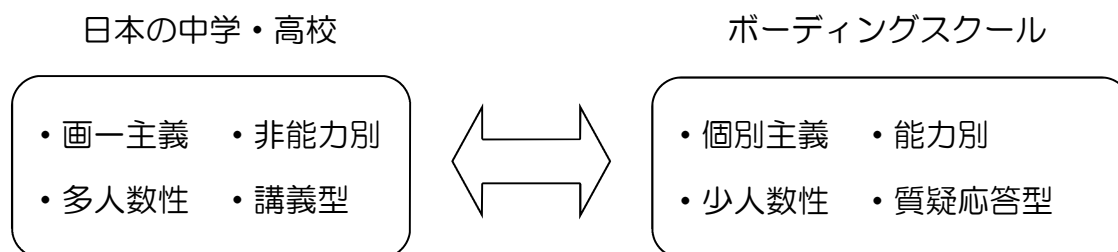
例) Cheshire Academyの教育理念



2) ボーディングスクールの教育システム

徹底した個別主義—生徒によって違う時間割

履修科目と時間割はすべて生徒一人ひとりに合わせて一年ごとにその能力と理解力、学問的興味の方向、進みたい大学の専門分野等を考慮して決められる。一定の必修科目以外は、時間割は生徒が学校側の教務主任と話し合って個別に決めていく。



できない生徒のために用意されたエキストラ・ヘルプ制度

授業についていけない場合や、特に難しい授業の場合は、その生徒はエキストラ・ヘルプといわれる特別補習を受けることができる。放課後、教室に生徒が数名残り、教員や成績優秀者がついて補習を行う。それでもついていけない生徒には、放課後または夕食後などに先生の自宅でマンツーマンの個人教授を行う。

ボーディングスクールの単位制と時間割

例) The Williston Northampton School → 卒業のために4年間で**19単位**が必要

卒業に必要な最低必修科目＝14,5単位						
国語	数学	科学	外国語	歴史・社会	宗教・哲学	芸術
4単位	3単位	2単位	2単位	2単位	0.5単位	1単位

1単位＝1科目×週5ピリオド（1ピリオド＝45分）×1年間

※その他卒業のためにスポーツ系の種目を修了することが求められる。

タイムスケジュール

※1ピリオドは一般的に45分。45分だと1日7ピリオドになる。その他1ピリオドを85分にするとところや、一部科目を85分に切り替えているところもある。

1st Period	2nd Period	3rd Period	4th Period	5th Period	6th Period	7th Period
8:10 ～8:55	9:05 ～9:50	10:00 ～10:45	10:55 ～11:40	11:50 ～12:35	13:40 ～14:25	14:35 ～15:20

ある学校の実際の週間予定（１ピリオド＝４０分）

	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.
1st Period 8:00～8:40	Math	Chemistry	History	Faculty Meeting 9:00		English
2nd Period 8:45～9:25		English	Math	Chemistry 9:40	Spanish	
9:30 ～10:00	Meeting Block	Assembly	Chapel	Break	Senate Meeting	Assembly
3rd Period 10:00～10:40	Chemistry	History		Spanish	Math	Spanish
4th Period 10:45～11:25	Art History		Art History		Art History	Chemistry
5th Period 11:30～12:10	Spanish	Math	English		History	Lunch
12:10 ～12:55	Lunch	Lunch		Lunch	Lunch	
6th Period 12:55～13:35	History				English	
7th Period 13:40～14:20	English	Spanish		Math	Chemistry	
8th Period 14:20～15:00					Chemistry	

※空欄のピリオドは、デイトタイム・スタディホール（study hall＝強制的自習時間）、社会奉仕（community service）、特別補習（エキストラ・ヘルプ）、スポーツ系の科目、教会での宗教行事、ミサ、全校集会、講話等に充てられる。主に15時から夕食までの2～3時間はスポーツ系の科目ないしはクラブ活動に充てられる。

1日のスケジュール ※参考：St.Thomas More School

6：45-7：30	朝食
8：05-8：20	部屋の検査
8：25-11：35	午前の授業
11：35-13：10	昼食
13：10-14：00	午後の授業
（14：00-14：35）	教員への質問）
14：00-16：45	スポーツ
16：45-18：15	夕食
19：30-21：30	自習時間
21：30-22：15	自由時間
22：30	消灯

- 45分授業×5コマ
（午前4コマ 午後1コマ）
- スポーツ活動：約2時間×週6回
（水・土：午前授業、午後対抗試合）

3. 運営

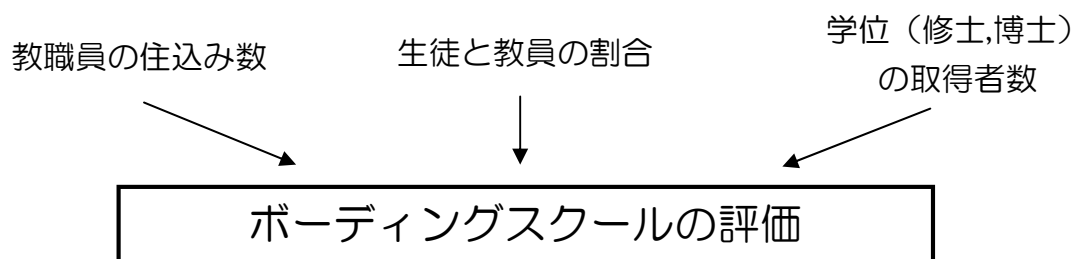
1) 学費

ボーディングスクール1年間の費用の平均は\$41,000。しかしながら留学生は英語力に大きなハンディがあり、それをカバーするためのE S L (English for Second Language) システムが必要となるため、その分の費用が生じる。また、アメリカ人と違い、留学生は病気怪我に関する医療保険も別途費用が必要となるため、留学生の現実に合わせて年間費用は下記の通り。

授業料	\$47,000 ~ \$49,000
その他	
・ ESLクラス費用	\$6,000 ~ \$8,000
・ 留学生管理費用	\$1,500 ~ \$2,000
・ 医療保険	\$1,000 ~ \$1,500
・ 授業料保険	\$2,000 ~ \$3,000
・ 学校諸経費	\$3,000 ~ \$5,000
・ 本人への年間小遣い概算	\$2,000 ~ \$3,000
年間費用合計	\$55,000 ~ 59,000

2) 教職員

生徒と教師が寝食を共にする24時間体制の教育 ⇔ 生徒にとって第2の家庭



優秀な教師の確保のために

- ・ キャンパス内に住宅完備
- ・ 子供を優先的に入学
- ・ 授業料の免除、減額
- ・ 博士号など上の学位を取るための勉強の機会提供

ボーディングスクールの規模

	設立	学生数	留学生数	寮生数	寄付金 貯蓄額 (100万\$)	年間 授業料
Berkshire School	1907年	380人	19%	88%	94	49,900\$
Suffield Academy	1833年	412人	17%	70%	30	48,400\$
Taft School	1890年	580人	16%	85%	206	48,360\$
Choate Rosemary Hall	1890年	850人	13%	74%	283	48,000\$
St.Thomas More School	1962年	185人	30%	100%	10	43,900\$
Cheshire Academy	1794年	364人	30%	60%	8	46,900\$
Deerfield Academy	1797年	630人	14%	88%	368	47,500\$
Wilbraham & Monson Academy	1804年	362人	30%	44%	5	49,500\$

外国人学生受け入れの実情

- ・アジアからの留学生が増加

例) Phillips Academy Andover校 (2006～2007年度)

- ・留学生の割合 86/799人 (約8%)

- ・留学生86人の内訳

香港 (16)、韓国(13)、日本 (7)、シンガポール (7)、タイ (6)、中国 (6)
台湾 (2)、カナダ (7)、サウジアラビア (4)、英国 (3)、フランス (2)、
スペイン (2)、バーレーン (1)、ブルガリア (1)、ドミニカ (1)、
ドイツ (1)、
ハンガリー (1)、イタリア (1)、ジャマイカ (1)、カザフスタン (1)、
メキシコ (1)、スイス (1)、トルコ (1)

4. 経営体制

1) ボーディングスクールの収入

生徒からの授業料、寄付金、基本財源の株式運用収益で成り立っている。



※ボーディングスクールは、別名インディペンデント・スクール

2) ボーディングスクールの経営

①ファカルティ (faculty) : 教育現場責任者 (教師)

学校案内のパンフレットに全名簿公開 (名前、学歴、担当科目、学位etc)

②トラスティーズ (trustees) : 理事会メンバー

10~20名で構成され、卒業生や生徒の親でそれなりに社会的地位にある人がトラスティーズとなっているケースが多い。基本的に無報酬。

◇理事会 (Board of trustees) の役割

- 学校財産の管理運用
- 校長職の採用、任免
- ファカルティの主要メンバーの任免
- 学校運営の基本的事項の処理決定

③ペアレンツ・アソシエーション (parents' association) : 父母会
生徒の声、父母の声を代表し学校当局に伝える窓口。

④同窓会 (alumni association)

⑤校友会 (friends of school)

ボーディングスクールの卒業生によって構成されている。
毎年の寄付金募集活動で重要な働きをする団体。

【3】ボーディングスクールにおける教育体制



Body (sports)



1. インタースカラスティックの水泳の試合風景 2. インタースカラスティックの女子バスケットボールの試合風景
3. インターミューラルのバレーボールの練習風景 4. インタースカラスティックの男子アイスホッケーの試合風景

(全てChoate Rosemary Hall)

スポーツマンとは、運動能力の高い人間、スポーツ好きの人間のことを指すのではなく、Good Fellow！即ち良き輩、人格者！が本意である。ここでは、それを大前提とし、スポーツ活動（技術習得、戦術考案、人間関係活動等）における様々な実現過程で、自己と向き合い、他者と向き合い、環境と向き合い、よき成長を促していくことが目的とされている。

勝ち負けは、その良き刺激剤のようなもので、それよりもその勝ち負けの前後過程における活動に教育効果を見出している。よって、種目も単一種目ではなく、3シーズン制で3シーズンすべて異なる種目に学生は取り組むことになっている。1軍のときもあれば3軍のときもあり、個人種目のときもあれば集団種目のときもある、様々な制約の中で人との関わり、環境との関わりを学習していくのである。

※各学校における教員及び学生へのヒアリングによる生の声を以下に掲載する。については、各学校名の略称は下記のとおりとする。

DA：ディアフィールド WMA：ウィルブラハムモンソン TF：タフト CA：チェシア
BKS：バークシャー SA：サフィールド TMS：トマスモア CRM：チートローズマリー



① 教育理念・方針

体育は子供たちの教育の一部であり、子供たちをいろいろ忙しくさせ、充実させることが重要！一生懸命勉強して、その後に体育！これが欠かせない！

Yeah so the athletic piece is a part of what we feel is the piece of the education of our kids, go ahead.

体育は子供達の教育の一部であると考えています。

And obviously the kids are here for the education first but we do take the athletic piece serious. And one of the important pieces of boarding schools to keep the kids busy so every afternoon we ask the kids to participate in something of programs.

もちろん学習が先ですが、体育も真剣に取り組んでいます。ボーディングスクールでの重要な部分の1つはいかに生徒を忙しく充実させるかという事です。そこで午後は何らかのスポーツプログラムに参加するようになっています。(TF)

生徒たちに経験してほしい基本的な価値はチームの一員になるということ！

I would call it a trade. Meaning that I would say what the public school might all achieves is exercise or wellness, and what the private school model achieves to a better degree is a team experience. So we believe MS is not just speaking for Deerfield I would think that all the other schools you visited would echo this and would say that a fundamental value that we want Deerfield kids to experience is you know, what it's like to be a member of a team which not all sports are team sports but most sports volleyball included are team sports. So we make sure that our students who may be here for one year or may be here for four years. They could enter it any point in time. Have a reasonable number of team experiences by the time they graduate. So that's the trade and then the as far, if you are playing a sport that requires exercise you are getting physical wellness anyway. So you are achieving what you are achieving at gym class. Right? But then you are adding to it, competition, what I would call teammate skills which I think are life skills. You know, it also. It's the same skill set that you are. Our classroom model as such that it's not always lecture, its discussion. So teachers and students are having dialogues about the content of their material. Be it English, mathematics, science doesn't matter.

トレードだと思います。公立では健康、体力維持を保てるし、私立ではチームワークの経験をつめる。MSはDeerfieldのみの考えを述べているのでは無いと思います。あなた方が今回訪ねた学校の意見は同じ物なのではないでしょうか。生徒達に経験してほしい基本的な価値はチームの一員になるという事です。1年在学であれ、4年在学であれいつでも参加でき、卒業時にはチームでの経験を沢山積んでいることを確実にしたいのです。健康維持に加え、人生のスキルとも言えるチームメイトスキルを得る事ができるのです。授業においてもいつも講義という訳ではなく、討論をすることにより先生、生徒間のコミュニケーションがあるのです。英語、数学、科学、関係ありません。(DA)

生徒に期待する成長は、良識ある人間たること、良き市民であること、良き生徒であること、良きチームメイトであること、忠誠心があること。

Q. お聞きしたいのですが、スポーツを通して生徒には何を期待しますか？

A. Well first of all we expect him to be a good person. We expect him to be a good citizen. Good student. Good team mate. Someone is going to be committed, someone is going to sacrifice. Someone who is going to work hard. And someone who recognizes its group as well as we do collectively, as well as the group does then you realize that's how individual athletics would come.

まず良識ある人間であること。良き市民であること。良き生徒である事。それから、チームメイトであること。チームを大切にする。忠誠心があり、自分を犠牲にする事ができる。全力を尽くす。個人の成長はグループの重要性が大事だという事を理解する事。(TF)

学校で知識を蓄え、自身を強くし、社会に貢献する人間になってほしい

Q. Wilbraham Monson Academyではどのように生徒を教育しているのですか？哲学は？生徒にはどうなってほしいですか？

A. We, I think that we really want them to be a strong individual. But we want them to also subordinate their individualism to the betterment of the society. So we speak we were a lot at make yourself, develop yourself academically, develop yourself athletically, make yourself a good citizen. For one reason and that is to make our society better, to give back. We talk a lot about giving back. So even if it's to help someone academically, to help someone in your community, help those who can help themselves. We have a community service program; we work hard to try to get out and help and other children who may not have the same privileges. Other people who are in desperate situations the schools really defined itself as making yourself as tradition in our school where you train and work hard to become very knowledgeable, very strong yourself and then you really go out and you do service to the community and to your society and to others. And that's what we believe in.

強い人間になってほしいと思います。ただ個人主義は社会を良くする為の従属としてほしいです。自分を造り上げる、学習面で、アスリートとして発達し、良き市民となる。社会を良くするのは社会に奉仕する事だと思うからです。学校で、コミュニティーで、人を助ける事です。社会奉仕プログラムでは恵まれない人々をたすける活動をしています。学校では知識を蓄え、自身を強くし、社会に貢献する人間になる、それを我々は信じているのです。(WMA)

② ボーディングスクールの教育システム

文武両道をどう教育するか？ではなく、文武両道の教員、文武両道の生徒を集めている！！

Q. 日本では学問に集中するためにスポーツをしないという傾向があります。ここではスポーツと学問の両立をどう教育しているのでしょうか？

A. Our, the students we admit, we were selective school. We allow for example athletic coaches. So, I coach 2 seasons myself to meet perspective students who also have a talent or an interest in athletics. And make recommendations to the admission office, for example to say, if you think that this student is worthy of placing Deerfield academically and in terms of personal integrity. So those are two significance skills. We allow coaches to say, these are promising or impressive athletic students. So culturally in our setting here, because we live in a small, then the community by itself embraces athletics because you as a faculty member or as a student in your free time will support other. You will attend feeder performance; you will attend basketball game. Most of the coaches and the faculty members were athletes once themselves. So when we hire faculty members, we are looking for people with a breath of interest. Not only to be have demonstrated proficiency in their academic field, but also have talent and interest in athletics. So it's cultural in that sense. And we have also protected athletics to your question within the schedule of the day. So there is a set time when 400-500 of our or 630 students are pursuing an athletic endeavor all at the same time. So it's not, it's unnatural to only be, you know, pursuing an academic, exercise at 4 o'clock in the afternoon, for example. So if you stayed here today, if you stay through the afternoon, you would see the students will finish the academic day at 3 o'clock and then there is a large migration over to athletics and teams will practice and tomorrow which is Saturday is a contest day so all the interscholastic teams will either play here or at schools like Taft's or Choate tomorrow.

ここに入学してくるのは選ばれた生徒です。例えば、私は2学期間コーチをしながら才能や競技に興味のある生徒に直接会う事が出来ます。そして入試オフィスにこの生徒は学問面、個性面でこの学校に適していると推薦をします。コーチにはその権限が与えられています。この学校の文化として運動は重要視されています。ほとんどのコーチ、先生自身がかつてアスリートでした。先生を雇う際は学問のみならず運動面でも才能があり興味がある人物を選びます。こういった環境のなかでスポーツを、守ってきたといえます。全校生徒630人のうち400から500人の生徒が同時にスポーツに打ち込むのです。3時になると生徒の大移動が始まり、練習が始まります。明日は土曜日でインタースカラスティックチームがここで試合をしたり、TaftやChoateに出向きます。(DA)

両道の生徒たちは総じて裕福であることが傾向

Exclusively out of sports perhaps 10 to 15% and they tend to be interested in theater or, or they haven't grown up prior to Deerfield with access to athletics. So there are some, there are some, for example: African-American students who grew up in New York City where they just didn't the opportunity in their schools but did not have the resources or the budget to promote either physical education or the team sports. So what you tend to see here and it's a problem is that, many of the kids who are athletes here are coming from more affluent backgrounds relative and we have a wide, our students cover the entire wealth spectrum. So what I've noticed, I've been here for 20 years is that, the students that had lived in towns that had youth sports or club sports where you can not only go to gym class at school during the week, but then you can play team organized sports on the weekends. That's a major United States phenomenon. It's the growth of youth sports which are expensive. They give younger students an advantage by the time they are teenagers. And then they become a lot of the kids that fill out your teams at the place of Deerfield, so.

10から15%は演劇に興味があったり、運動をする機会が無かったとか。たとえばアフリカ系アメリカ人でニューヨークに育った生徒はスポーツをする機会がなく、学校はチームスポーツやPE (Physical Education) の資源や予算が無い事が多いです。ここでの傾向は問題でもあるのですが、アスリートは裕福な家庭からのことが多い。ここの生徒の出身は全ての階級を網羅しているといえます。ここでは20年になりますが、街に住んでいる生徒は、ユーススポーツやクラブがあり、ジムクラスに参加し、週末はチームスポーツをすることができます。アメリカの傾向です。ユーススポーツはお金がかかりますが、ティーンになると既に参加していなかった若者より優位に立っているのです。(DA)

PG (ポストグラデュエート) クラスはプロへの準備でやる生徒もいるが、殆どはSAT対策、Division 1 でプレイする為に勉強も頑張っている！

AT (エスエーティー、サット、Scholastic Assessment Test、大学入試) とは、非営利の試験専門会社である「College Board」が主催するテストで、アメリカの大学入学時考慮する要素の一つである。SAT論理試験 (SAT Reasoning Test : IBSAT I) とSAT科目別試験 (SAT Subject Test : IBSAT II) の総称。(Wikipediaより)

Q. バasketボールやフットボールには、PGチームがありますよね。そういった生徒はプロをめざしているのでしょうか？

A. Well I think they are, I hope for a professional, its not a realistic goal for most of them. No, its not professional, some of the basketball players put more overseas with one came in the NBA now but the rest, couple of them development league and the rest they are playing professional overseas. All the other guys that do the post graduate program, the PG program will come here to get their scores up for their ACT test or their SAT test and also to get their grades up for academically. Some guys what the LEC double is, is what they call it NC double clearing [Unclear 04:36] so they have requirements educationally for them to that they have to meet for them to go to play division one at [Unclear 04:45] at a college. So most of the guys that come in here they don't have those requirements yet, so they come here to get those requirements, to meet that line where they have to get over it to play at division one college.

そうですね。ほとんどの生徒には現実的なゴールではありませんが。プロは現実的でない。デベロップメントリーグに二人、あとは海外のプロでプレーしています。その他PGプログラムをしている生徒はACTスコアやSATテストをのばす為にまたは勉強の成績を上げる為など。ディビジョン1でプレーするにも学問的が成績が良くなければならない。ここのほとんどの生徒はその必須条件を満たす為に来ています。(TF)

入試における四つの要素は、道徳・体育・社会性・学習

At pour school it is one of four major beliefs, its part of our mission. The academic will educate students, so one of our four major goals at the same time is more is for all our students to be involved in sports on a daily basis. And we also try and get all our kids to compete on interscholastic team, none of our students would ever, if the student tries to make a team whether in hockey or basketball, football or soccer. They are the team for them at the same time is more, we believe we are 100 percent in the concept of sports helps the person grow. And we mandate it here, its not a discussion, our students have to be in sports, our students have to be in activities on a daily basis and is I would say close to 60 and 70 percent of our, almost 100 percent of our students who are the team one time know the [Unclear 26:18] year. But in deep seas its 60 to 70 percent.

4つの信念があります。学問にて教育しますが、全ての生徒が何らかのスポーツに日常的に打ち込んでいる事がその中の1つの信念です。全ての生徒が希望する競技にてインタースカラスティックでチーム競技に参加することができる。スポーツが人間を成長させることは100%信じています。ここではスポーツ活動は義務なんです。60~70%の生徒が毎日活動し、〇〇年を通してみると100%に近い数字です。(TF)

Q. 入試における4つの要素とは？

A. Well we call it, its moral, athletic, social, academic. You can use the academic maps for moral academic, physical and social. You know so when their kids forge it, we just same time is more relaxed in the future in these four areas.

スポーツと学問が相成るのは、学びに構造・規律・組織（団体）・コミットメントがあるからである。

Q. なぜスポーツと学問は相成るのか？

A. Well we believe that first of all the structure, the discipline, the organization that you learn in a sport working with a group of people. Its very synonyms that Structure, discipline, the organization, commitment from loyalty, everything about sport we believe makes kids, we believe when kids are doing well in sports they typically do better in school because they feel good about themselves. And when kids feel good about themselves and everything blossoms.

スポーツを通して集団の中で学ぶことの中には構造、規律があります。同義語〇〇。構造、規律、団体、忠誠心など、スポーツは生徒を育てると信じています。スポーツで良い成績を残している生徒は学問でも伸びます。自分に自信を持てる生徒は全てに開花すると言えます。（TF）

スポーツと学問は相性がいい。スポーツ活動で毎日の時間管理ができるようになった。

It's a lot the same way, its like I always believed that athletics and academics go well together. In my case just as a student when I was in college, when I didn't play a sport, at first I struggled because it helped with time management because now all of a sudden I had practice, I had to make sure I got dinner and then I had to go do my work. So I set up a schedule everyday where I could do it and I felt athletics helps with your time management and helps you stay focus and what you need to do.

同じです。スポーツと学問は相性がいい。私が大学生のときですが、スポーツをしていないときは時間の管理でつまずきました。しかしスポーツを始めると毎日の時間の管理が出来るようになりました。そしてしなくては行けないことに集中する事が出来るようになりました。

And that all falls in the same place with his commitment, discipline and all that, it all works together.

忠誠心、規律など全てが上手く回り始めるのです。

I mean a lot of same things they said one thing that its sacrifice, they sacrificed a lot of time, lot of egos for sacrifice times and another thing that we preach a lot is like family. When you sacrifice for another and try to work together as family, work through your problems and solving difficult times but it helps you grow, its all part of the growing process.

ここでは沢山の時間を犠牲にします。自分を犠牲にして、家族のように一緒に乗り越えていく。自分の問題を解決し、人間的に成長する課程なのです。（TF）

授業とスポーツは関連があり、同じことを教えている。

There is an emphasis on winning, prospect to the process and learning how to win and what it takes to win and Jerry is the Basketball coach. And he puts a lot of time in developing individual skills and its practices and so all his players between September and when they leave in May have improved across the board. They have developed their individual skills.

勝つ事に重点がおかれ、どのように勝つか、勝つ為の方法について学びます。ジェリーはバスケットボールのコーチです。彼は個人技術の向上に時間をかけ9月から5月で飛躍的に上達します。個人のスキルを磨くのです。

So I think his kids feel better about themselves, their game have gone up, lot of bigger kids when they are in highs school had to stay under the basket. Jerry will allow these bigger kids to shoot, he will develop their overall skills not just from the position the play.

選手達は自分に自信をつけ、ゴール下に守備をしていなければならなかった選手達がシュートをうてるようになります。自分のポジションだけでなく全体のスキルを上達させるのです。

Well we are all competitive, we all do want to win but we want to teach them how to win the process to winning and it can be done individually especially the level of each team plays at. They play very high level, one individual is not going to be able to run the whole show.

勝つ為の道のりを教えるのです。個人プレイで勝てるようなレベルのチームとの試合はありませんから。

And a lot of, it' s a sacrifice like I said before the team, at some point we are going to need to be rely on another. And he does a pretty good job of that teaching the kids at.

沢山の犠牲をし、チームの為にお互いを頼りにすることが必要です。彼はそれを教える事に秀でています。

It doesn' t happen just like that again, still we are talking the same kids about the same issues that it was in September it is today.

一度ならず、何度も同じ課題を9月から今まで繰り返しです。

We like to hear lot of our sports correlates with the classroom, we teaching the same thing in sports that we are in classroom.

授業とスポーツは関連があり、同じ事を教えているのです。(TF)

米国ではスポーツマンシップやチームプレーよりスタンドプレーが注目される。メディアで何が放映されているかが大きな問題。

Q. 今のアメリカ全体を見たときに、彼の考えるスポーツマンシップというようなものが、スポーツを通して国民に浸透しているような状況になっていると思いますか？

A. That's my idea, I don't think that's the way it is in the United States, I think its just the opposite in United States.

それは逆だよね。やはり、そううまくいかない。私の理想はそうだけれども、アメリカではそうになっていないと思います。

A. What's our problem in my opinion the problem in the United States is what shown on TV. When they have ESPN and Sports center they show guys dunking the basketball, hitting home runs, striking somebody out, its all about the individual rather than, its so much about the individual rather than the team. And as for kids see so that's their perception and that's we tried to change.

アメリカでの問題はメディアで何が映し出されているかが問題だと私は思います。ESPNやスポーツセンターではチームよりもダンクシュート、ホームランをする個人を映し出している傾向があります。子供達はそれしか観ない。(TF)

入学してくる生徒がもともと賢く、学習でもスポーツでもとても競争意識が高い！コーチがスパルタ的に指導する必要がない。

Q. 実際にどのように教えているかなんですが、日本ではコーチが繰り返し教え、選手が出来ないと怒ったり罰を与えたりする傾向があります。こちらではどのように教育しているのでしょうか？

A. Sure. It probably varies depending on who the coach is. In some sports there's more screaming you know, very active. Most of our coaches tend to be very positive and the kinds of kids who come here, because they're academically very capable they tend to be very competitive themselves in athletics as well as in academics. So that you don't have to - the coach doesn't have to you know be harsh, scolding them, doesn't happen.

多分コーチによって異なると思います。スポーツによっては怒鳴ったりする事が多いスポーツもあります。ほとんどのコーチはとてもポジティブです。ここに入学してくる学生はとても賢く学習でもスポーツでもとても競争意識が高い。よって、そういった生徒達にコーチは厳しくしたり、怒ったりする必要がありません。(CRM)

近年は、一種目に特化したがる生徒が多いことが少し問題

Q. 今と昔とでの子供達の違いは？

A. Yes, our students are becoming much more specialized. Kids who are very good soccer players just want to play soccer all the time. Thirty years ago, they were playing soccer and basketball and baseball. Now, it's just soccer or swimming or tennis, if they could they would just do one thing because they think that would be the key to going to a top university I believe you know or playing tennis there. So, there's a lot of pressure to specialize earlier than before.

生徒達はすでに専門的になってきています。たとえばサッカーが上手な生徒はサッカーのみをプレイしたい。30年前はサッカー、バスケットボール、野球と全てやっていました。専門的になることが良い大学への道であると思っているからです。でもそれは違う。そういう傾向はどうしてもあって、早い時期に一元化するプレッシャーは相当です。(CRM)

全ての生徒に自らの才能を開花させる機会を与えている。それが種目数の多さである。

Q. 勝てる選手、勝てない選手に対する教育はどのようにしているのでしょうか？

A. Sure, yeah I know what you mean. I think a lot of times it's about that student discovering some new sport. So, we may have a student who's a soccer player but not very good at soccer. Often times those students, they don't make the first team, they don't make the second team they might say, 'Oh, maybe I'll try cross country or water pole or rowing' and some of them get very good at another sport they haven't known before. There's many success stories like that for those types of students.

わかります。多くの場合は生徒が新しいスポーツを見つけていくことにあると思います。一軍、二軍に入れないサッカー選手はクロスカントリーやボートで才能を開花させたり。今まで知らなかった能力を見つける事が出来る生徒が沢山います。(CRM)

クラスルームでは全般に優れていることを要求する！全てコーチの責任範囲となる！

Which in the classroom we try to get you to be, they teach you to be all rounded and better. In sports we try to coach you, teach you, to be better as an individual and better within a group as well. So we often say our teachers are our coaches. Have you watched coaches come in today when they all teachers, all of them. Math's, Science, English they all teach. So they may at, you know they, so that's very important. We try not to hire outside coaches which try to have those who are our teachers. So they would have it in class, coach them and then dormitory night, the last person you see, when they check you in is your teacher coach at the end of the night, in the boarding school and we don't, we don't have that in public school. You assist at 2:30, 3 o'clock school ends, you may go your sport but your coach is separate. So there is a little difference. So if you don't do well academically in public school your coaches won't really know about it. If you don't do well academically here your coaches know about it immediately and its part of what we do. So we don't, we don't just coach, we also fierce if you don't involve athletically or academically, the coach is going to be part of that. I coach, right now I coach the Varsity girl's soccer team, the girls are my team I am responsible for them academically. I keep track of how well they do making and I also help them in college process and also if they don't behave well. That's my responsibility. So there is ownership by the coaches. Just like there is ownership by the teachers.

クラスルームでは全般に優れている事を目指します。スポーツでは個人でもチームでも上達するように教えます。多くの場合先生はコーチです。先生は全員コーチをします。外部のコーチは極力雇わないようにしています。クラスで、コーチとして、寮でというのがボーディングスクールですが、公立はそうではありません。公立では授業の様子をコーチが熟知していません。スポーツ、学問の両面でコーチには責任があります。現在一軍の女子サッカーを教えています但勉強面でも私に責任があります。日常から大学入学のプロセスまで、コーチに所有権が、先生に所有権があるので。(WMA)

ボーディングスクール全体の学校間を越えた理念における一貫性の背景は、人間的にバランスのとれた生徒、アスリート、市民を育成するという伝統を共通して守っているからである！

Q. ボーディング・スクール自体がみんなそれぞれ違う土地でやっているのに、なぜ皆さんボーディング・スクールとしての理念がほとんど同じなのか？

A. I think its tradition. I think it's a tradition that is in all boarding schools we don't talk about it. But we do have you know, web sack. We have even the public school, you know, the philosophy. So there is a philosophy. But I think we don't, we don't change the philosophy. We change a little bit; schools are different sports requirements or whatever else. But I think overall, especially in New England, the boarding schools are very similar to each other because we hold on to our traditions. And we hold on to those ideas of, of creating a well rounded student, all rounded athlete, all rounded citizen and I think tradition is really the biggest part of it. That's why we are so similar to each other as we basically have the same structure in place. Big schools, small schools which schools did you.

伝統だと思います。公立校でもそうだとおもいます。スポーツ施設は変わっても哲学は変わらないのです。特にNew England, ではボーディングスクールはとても似ていると思います、なぜなら私たちは伝統を守っているからです。人間的にバランスのとれた生徒、アスリート、市民を育てるという伝統です。伝統が大きな部分を占めています。ですので根本的には同じ構造なのです。大きな学校も小さな学校も。

A. And I would say if you, if you look at that picture, when he went to school here. I would say if you could bring him back alive and bring in him here today. He would recognize it. I think he would recognize the tradition, the philosophy. You know, and even when things change, computers, phones, the popular culture that our teenagers are involved. That are the problems they have with that. And our core we really the same. And we built around that, we hold on to it. Because we want to protect our children and we want them to be stronger to avoid the negative parts of our society.

彼をここに今連れて来たら、彼は変わっていない伝統、哲学に気がつく事でしょう。コンピュータ、電話、ポピュラー文化など現代の若者が関わる世界が変化したとしても、問題や中心となることは同じでしょう。子供達を守りたい、社会の否定的な部分を避ける事が出来る強い若者を育てたいのです。(WMA)

誰にもチャンスがあり、経験価値は等しい！

Everyone has an opportunity. Right. Everyone has the opportunity and everyone has the specific talents so that it goes well with the, in each level so that the experience is the same quality your.

誰にもチャンスがある。そうです。誰にでも機会はある。誰もが様々なレベルに合う特異な才能を持っていて、。

The just the skill is different and the ages are different that's all. The experience is almost the same.

技術と年が違うだけです。経験は同じ。(DA)

公立校との相違は・・・良き市民、良き生徒、良きアスリートであることを一人の教員が兼務で伝えて行く一気通巻性

So we, the difference athletically in public school they don't, its not required to play sports. So it's your choice, optional. So they don't have force that. I think the boarding school is much more of a environment of everyone being involved and that's the most important piece that you are involved that you are the team. At the same time there is a strong force to make sure that the academic side is strong as well. Because we talk about scholar athletes that academics always comes first. So you are if you are an athlete, your coaches are responsible to be sure that you are getting good grades. That you are good citizen and we actually, we talk about, with our teams. So we talk about academics first. That's your priority. You know, get straight A's do as well as you can and then be a great competitor and play, play sports.

公立ではスポーツは必須ではないので、選択式です。ボーディングスクールは全員が参加するという環境が整っています。もっと重要なのがチームの一員として参加するという事です。同時に勉強も出来なければ行けません。学生には学問が最優先だという事をいつも話します。アスリートの成績はコーチの責任でもあるのです。良き市民である事も伝えます。学問が最優先でスポーツ頑張るのです。

Yes. I think, you know, we believe that through athletics and through the experience we create that you develop your lines, your body and your spirit and so those pieces we believe who create a better student and a better citizen and we believe that when we graduate, that scholar athlete that they have, they are strong in all of these areas and we believe that what they learn in a classroom as a student. What also they learn as a, an athlete, competitive athlete, that those are critical things to take them through their life, and in to the next stage of their life.

スポーツを通して、経験を通して心身を発達させる事が出来ると信じています。それらが良き生徒、市民をつくと信じています。卒業時にはこれら全ての面で優れているでしょう。これらの要素は人生を送る上でまた、生徒の次のステージににおいて重要です。

I think, I think that public schools are very good. I, as I said, I went up through them. I think that the public schools there is less, personally I think there is less communication, co-operation between the academic side and the athletic side. There you have teachers teach and coaches will coach. So its very divided. Here our teachers are our coaches.

公立もとても良いですが、個人的な意見としては学問とスポーツサイドのコミュニケーションや協力が欠けているように思えます。先生は授業を教え、コーチはコーチをする。隔たれています。ここでは先生はコーチですから。(WMA)

理念実現に向け、教員同士の結束、連携は全教員が集まる1週間のトレーニング期間で行う！

Q. 人間性が優れていて、良き市民であるという概念を生徒に教えるべき先生とはどのように分かち合っているのでしょうか？

A. We the teachers are mentors. All the teachers who help them on a . . . and we have meetings to talk about our philosophy, what we want to do. So they are trained. New teachers have to go through a week of training. Before they even meet the, or they work with other teachers. So it's a very specific training schedule to get them up to our level, what we want to do. And then we have to introduce the faculties at workshops those types of things.

先生はメンターです。ミーティングを持ち、哲学について話し合います。新任の先生は仕事を始める前に1週間のトレーニングがあります。とても詳細なトレーニングで私たちの望むレベルを達成するのです。その後ワークショップなどで学部が紹介されます。

Q. その1週間のというのは、この学内の教員の人たちがみんな集まってやるのでしょうか？

A. Yes, yes and they have all the teachers from many different areas. I do, I do the athletics part of it. I teach them about our philosophy. So philosophy why we do, what we do and they would want other academic peaces boarding school, dormitory everything is included in all of that put it altogether so top of the training.

ええ。様々な部門の先生です。競技面での哲学は私が教えます。なぜこの哲学なのか、どうしたら良いのか、ボーディングスクールでの学問、寮、など全てが含まれます。

Q. いつ、どのように行うのでしょうか？

A. Before our students come back, it's before school starts and they do it during a week, when they actually have dinners, lunches and then individual meetings with they are taught and trained. Given material go through it from academic subjects, athletics, play service, dormitory they have play sessions where they actually create situations and they ask to understand them and solve them the dormitory problem, athletically what need to do in situations, so we do teacher education, coaching education and dorm here, boarding here education as well. So we focus individually, on them and as a group and then we tied it altogether but its during that week then its, its monitored as we go through the year.

生徒が戻ってくる前、学校が始まる前の1週間です。夕食、昼食を挟み、個人面談も交えながら学びます。資料が渡され、学習、スポーツ、寮生活などシュミレーション方式で実際に問題を解決しながら勧めます。個人的に、またはグループで活動し、両方をまとめます。1週間のトレーニングの後は年間を通してモニターされる事になります。（WMA）

③ スポーツマンシップ

スポーツマンシップとは・・・

- ・チームはイニシアチブ、インテグリティ、正しく向上する計画を立てる延長に勝ちがある。
- ・正しく振舞うこと。尊重

Q. スポーツマンシップとはあなたにとって何でしょうか？

A. We have two words that we teach, our two words that are mostly, two important words that are in a team are initiative.

生徒に伝えている二つの言葉があります。1つはチームはイニシアチブだと言う事。自分から進んで行動を起こす事です。

A. And integrity, so everything we do we also . . . we say okay do yourself and do the right way.

そしてインテグリティ、整合性です。全ては. . . そして自分から正しい方法で。

A. And we never talk about winning as the outcome, we talk about getting better, talk about planning together. And winning if you do all these things typically winning is the outcome of doing it the right way.

勝つ事は結果としては考えず、向上する事、計画を共にたてる事を考えます。正しく行う事の結果に勝ちがついてくるのです。

A. What I think sportsmanship is? Well doing things the right way, being respectful of your teammates, the coaches, the opposing teams, the officials, need to pursue of real team kind of persons. I don't want somebody here doing that, I don't think that's good sportsmanship. You play hard, you be respectful everything around you.

正しく行う事。チームメイト、コーチ、相手チーム、関係者を敬うこと。ベストを尽くし、周

スポーツマンシップとは・・・ 勤勉である習慣、上達する努力、一般社会よりも学校のほうが浸透している

Q. スポーツマンシップというのは、どのようなものであるとお考えですか？

A. I think it's - it's I would say it's sort of a group of habits, habits of hard work, self discipline, fair play you know you don't cheat, team work and your focus on improvement. If you focus on improvement, the wins or losses will be fine, you'll do well. So, it's really those cluster of value I think, hard work.

思うに、勤勉である習慣、自分に対する規律、フェアプレイ、チームワーク、そして上達する努力です。上達に集中する事により勝ち負けは問題ではなくなります。これらの価値観の集まりであると思います。

A. Discipline. Fair play. You know respect for opponents, officials, team work. And focus on improvement is most important.

規律。フェアプレイ。あと、フェア・プレー。相手に対する尊敬の念。チームワーク。上達するように努力することが重要です。

Q. スポーツマンシップはアメリカ社会に浸透しているのでしょうか？

A. Less and less. I think in schools it's better than just in the society at large.

薄くなってきているでしょう。学校のほうが一般社会よりも良いでしょう。（CRM）

スポーツマンシップとは、チームメイト、相手、自分が他人に望む態度で接すること

Q. スポーツマンシップの定義について聞かせて下さい。

A. Treating, treating other players including your opponents the way that you would want to be treated yourself. Don't do anything on the field that you would not want someone doing to you. So to be reflective about, you know, what do you care about, what do you hold it for. Then that is what you should execute to your opponents and your teammates as well to treat them well. Always think about what am I doing and whom am I doing it to? Is it the right and is it appropriate and how I find it?

チームメイト、敵も含め、自分が他人に望む態度で接する事。自分にされて嫌な事は他人にしない。相手チーム、チームメイトを正しく扱う事。いつも何をしているのか、誰にしているかを考えること。正しいだろうか？適切だろうか？どう思うか？

Q. それはご自身でそう考えたのか。誰かに教わったのか。

A. Everything. You know, the coach guides it. You know, I watch other teams, I watch other teams how they act. I have to, but I think it comes from the coaches you know, I watch all the coaches. So how they treat the students and try to get them to do. So their behavior and their attitudes are all built around our philosophy and I make sure the coaches do that.

全てです。コーチが導いてくれます。他のチームや、コーチを見て学ぶのです。どのように生徒を扱っているか、やる気にさせているか。生徒の行動や態度は哲学に準じて作られていくのでコーチが確実に実行しなくてはなりません。（WMA）

④ スポーツ教育

インタースカラスティックスポーツ；対外試合を前提としたプログラム（95%の参加率）、インターミューラルスポーツ；学内にとどまるプログラム（スポーツに何らかの形で積極的に関われない子たち向け）

ここではインタースカラスティック競技があります。つまり他校との試合です。そして費やされる時間やコミットメントは多く有りませんが、インターミューラルつまり校内のプログラム、PEクラスのような物もあります。生徒は週4日1日1時間スポーツをします。

Q. インタースカラスティック、インターミューラルでのスポーツの目標は何なのでしょう
か？

A. Sure at interscholastic level our varsity teams we want to try to produce the best possible team we can and give our kids the program that will set them up to go on to play college athletics. That doesn't mean that every kid on a varsity team is going to play college sports but we want to give kids the opportunity to do that.

インタースカラスティックではベストなチームを作り大学でのプレイにつながるようなプログラムを与えるようにしています。もちろん全員が大学でスポーツをするようにとは考えていませんが、その機会を与えてあげたいと考えています。

A. Our intramural program we want to give the kids and the opportunity that exercise and learn the benefits of participating in athletics. Its not nearly as serious.

インターミューラルプログラムは運動をする機会を与え、競技に参加する意義を学んでほしいと思っています。

A. And the other important piece here is we have varsity program in each sports but we also have two levels below that. So kids comes to, who has not played soccer before could play on lower level soccer team, learn the game, play against other schools and then hopefully, eventually move their way up to the top.

そしてもう1つの重要な部分はそれぞれのスポーツには一軍のみならず、その下にもう二つのレベルが有る事です。もしサッカー初心者がいても低いレベルから始まり対校試合に参加し、上達していくのです。

Q. インターミューラルは？

A. Kid could technically start in intramural and then in the next year join in interscholastic sports. I guess more of our younger kids start in the interscholastic sports, intramurals often turn into places for the older kids to go who have decided that athletics is not their road.

インターミューラルから始まり、翌年にはインタースカラスティックに参加する事が出来ます。察するに多くの若い生徒がインタースカラスティックから始まり、インターミューラルは、スポーツは向いていないと判断した生徒達の場所となりつつ有ります。

Q. 大学でのPEクラスは無くなっていますが、ここではインターミューラル、インタースカラスティックスポーツの重要性はどのように説明していますか？

A. Well to be honest we don't have to do a lot of explaining about that, most of the kids who are here are active participants when they arrive. There is definitely some education that goes on, our faculty members, all our coaches here, so that . . . advisor to a kid who might talk to the kid about the importance of exercise and getting involved in different things within the school. So its not a issue we really have to do deal with very much.

正直な所、説明する必要が有りません。殆どの生徒がここに入学すると同時に活動的に取り組んでいますから。もちろん運動の重要性、様々なことに参加する事の意義、などは先生、コーチから学んでいます。

A. Yeah, you know I think that American Universities it's the same way that financial cut backs that have taken place, I don't think that physical education is a priority at our Universities. But here we feel it is important to keep our kids active and involved.

アメリカの大学も経済縮小傾向に有ります。PEは大学の優先順位にはありません。しかし子供達が活動的に参加している事は重要なのです。

A. You know the other thing, the other piece that is true here is that kids can do theatre, drama or dance or community service in the afternoons yes. We want, we also want our students to follow their passion, there are very few kids who aren't participating in some form of athletics here. But there are other options besides athletics.

もう1つ重要なのが、子供達は劇場、演劇、ダンス、コミュニティーサービスなどを午後にする事が出来ます。私たちは生徒に自分の情熱を追い求めてほしいと思っています。スポーツに参加していない生徒は少ないですが、スポーツ以外にも選択肢は有るのです。

Q. どのぐらいの生徒がインタースカラスティックを？

A. I would probably say its about each season I would say about 85 percent to some form of sports, yeah.

シーズンごとに85%の生徒がなんらかのスポーツをしています。

A.. And over the past 5 years 95 percent of our ninth graders are youngest students haven't worn a TAFT Uniform meaning that they played on a team that TAFT and we think that's really important.

過去5年で95%の9年生がTAFTのユニホームを〇〇。つまりチームでプレイしたという事。これはとても重要だと思っています。

Q. スポーツ、芸術両方の活動の教育目標は？

A. Well I guess we offer these activities, we place importance on, we have a great drama program, a theatre program, we have people running that program who are really into the theatre. Its evident to the kids that what they are getting is the volume on their team, if they are passionate about drama then we have a good program for them. But we have kids who will be part of the musical and then in momentary will be playing in the squash team. So I think I am not sure that we really necessarily have to educate the kids about it, the programs just exist, they're strong, kids know that there are good places for them to go.

ここではそれらの活動を提供しています。素晴らしい演劇プログラムがありますし、情熱を持って運営されています。熱意があれば良いプログラムが提供でき、生徒にも何を得られるかが伝わります。ミュージカルに出演する生徒がスカッシュチームに属する事も有ります。生徒を教育する必要性はないと感じています。生徒は意義が分かっていると思います。(TF)

スポーツは毎日15時半～17時半

Correct so which, in our market, in our world doesn't really exist. So our, all of our athletics whether they are recreational or interscholastic are pushed to the back of the day. You know, so we are going through the academic day at this point and then we will, the period from 03:30 this afternoon until 5:30 this evening

そうです。私たちボーディングスクールの市場ではPEは存在しません。全ての競技、リクリエーションであれインタースカラスティックであれ、1日の最後に追いやられています。授業の後の3:30から5:30の間です。(DA)

インタースカラスティックとインターミューラル、そして演劇（ミュージカル）活動がある。

So we have 81 interscholastic teams.

81のインタースカラスティックチームがあります。

They practice up to two hours a day, six days a week.

週6日、1日2時間練習しています。

And they compete with other schools, so they have a schedule of maybe somewhere between 12 and 20 competitions with other schools in course of one season.

1学期間には12から20の対校試合が行われます。

The other sports we have are intramural and instructional and those are four hours a week maybe five but do not compete against other schools.

インターミューラルは週4、5時間で対校試合はありません。

So, the focus there is more recreational and instructional. So, we have instructional squash or recreational volleyball, so, it's just more to get exercise how fun it's not competitive with other schools.

レクリエーションや練習の要素が強いです。スカッシュ、バレーボールなど運動する事や、楽しむ事が主で他校との試合はありません。

Q. 単位は得れるのでしょうか？

A. Yes, the requirement for the students is that they have to do some kind of sport every term but they can choose doesn't have to be an interscholastic; they can choose what they want to do.

ええ。インターカラスティックでなくとも何かしらのスポーツを選択すれば良いのです。好きな事を選ぶ事ができます。

A. It's not . . . like it is in the academic you have a grade, it's just you have to participate and you have to be on the team.

アカデミックのように評価はしません。参加をしてチームに属すればいいのです。

A. And I should tell you there are some times, there are sometimes the students can substitute maybe one term of a sport, they can do a major theatre production or community service or other activities.

スポーツのみならず、演劇や社会奉仕などの活動にかえる事も出来ます。

Q. ミュージカルやアートには他校との競争はない？

A. No, well a little bit. In other words, in the spring if a student is in the major spring musical that is in place of a sport. So, there is some overlap and they will get credit. It's a really an afternoon activity requirement, most of the time for most kids they're doing sports.

そうです。少しなら。春になると大きなミュージカル公演がありそこで単位を与える事もあります。午後のスポーツには殆どの生徒が参加しています。

Q. どのくらいがミュージカルに参加しているのですか？

A.. It's small but maybe...Probably yeah let's say between 5 no more than 10 percent in one term.

すくないですね。たぶん。5から10%未満ですね。1学期間には。

A. Most kids are doing some kind of sports most of our seasons.

年間を通して殆どの生徒がスポーツをしています。(CRM)

スポーツの教育的価値は高い競争心を通じた良き経験と人としての成長

Q. スポーツ教育、アスレティック教育にはどんな価値があるとお考えですか？

A. We have a wide range of ability, so on the varsity teams I want the teams to be very competitive against the other teams because I think it's better experience for the students if the team is competitive. On the sub varsity teams I don't really care about their record, I want everybody to be able to play and grow as people and as athletes. And then we also want to offer some non competitive options like dance and art and community service. So the fundamental philosophy of the school is that everybody be physically active in the afternoon and the majority, the significant majority of our students do that through interscholastic sports.

ここでは幅広い能力があります。一軍チームには常に競争心を持ってほしいです。チームの競争心が高いと生徒にも良い経験になると考えております。代表でないチームにおいては結果は大事ではありませんが、全員がプレイし、人間として、アスリートとして成長してほしいと思っています。また競争を必要としないダンスやアート、コミュニティーサービスなども提供したいと思います。学校としての基本的な哲学は誰もが活動的な午後を送るという事。大半の学生がインタースカラスティックスポーツを行っていて活動的な日々を送っています。(SA)

スポーツ教育の重要性は、競争を通じた貴重な体験、注意力向上、睡眠向上、健康向上

Q. ボーディングスクールでのスポーツ教育の重要性についてお聞かせください。

A. Kids, it gives the kids a different atmosphere like the kids have like the academic atmosphere, you know where its more serious, you have more structure, you have a study hall. It gives that the kids that kind of freedom to go out and compete in a different way other than in a class room. A lot of guys will come here to play the sports but also to get their grades up, so it gives them that competitive edge to do something rather than just the academic stuff focus on something other than academics. And it brings the kids together, it gives them more of a community, it teaches them team work, it teaches them the benefits of being a team player and all that goes along with that.

子供達に違った環境を与える事が出来ます。競争する事によってクラスでは味わう事の出来ない体験が出来ます。スポーツを目的に入学してくる生徒もいますが、成績を伸ばしたくて来る子もいます。勉強でなく、スポーツで競うことによって得るものがあります。一体感、チームワークなどから学ぶもの付随するものです。

A. Also helps them to release energy and also we believe that, I always believe that if you're physically fit or if you participate in such sport or something that gets your body more physically fit. You become more alert and you can sleep better at night and you are able to hopefully perform better in the classroom too.

体力を発散させ、スポーツに参加することにより身体的に健全でいられると信じています。注意力がつき、睡眠の質もよくなり、学習でも結果が出せるようになります。(TF)

大学という次の受け皿が、チーム活動、社会奉仕活動をととても重視していることがスポーツ教育活性の大きな要因となっている。

Q. どのようにしたらスポーツの重要性を理解してもらえるのでしょうか？

A.. Well I was going through the application process for college, all that the college advices I had wanted me to be involved in this many activities possible, either clubs, extracurricular activities, I have volunteered in. But most of all a lot of colleges want to see that you are involved in team sports to show that you have the capability of working together with the team and working with others and they want to see what you can do. Team wise, they want to see what activities, they want more involvement in what you are doing, so I think that for United States colleges in America they want you guys to see, they want to see that you are doing things with teams. And they want to see that you are involved in your community, they want to see that you are involved with different things that you are doing during that secondary education period.

大学受験の経験から言うと、沢山のクラブや校外活動、ボランティア活動などを推奨していました。ほとんどの大学はチームスポーツに参加していたかを重要視しています。チームワークが出来るかどうかの判断材料になるからです。どんな活動にどのくらい関与していたか。アメリカの大学はチーム活動、社会奉仕など様々な活動歴を重視しているのです。(TF)

教育としてのスポーツは、必ずしもスポーツとは相いれない。影響を受ける生徒たちには改革ではなく、哲学を伝えて行く。理解する迄見せて行く。繰り返し。

And its difficult because the young people see that and sometimes think that' s the way it should be and work constantly fighting that and saying no.

若い子はプロスポーツを観て「こうあるべき」と思う事もあり、常にそうでないことを伝えるのは難しい所です。

Q. そういった生徒達はどのように教育するのでしょうか？

A. It comes through practice, it goes through conversation, it goes through letting them know that this is my philosophy. And also letting them know that its not a democracy, this is my philosophy and this is how its going to be done. And if they have a difficult time with it, its very easy to convince or its simple or sometimes it needs to convince priors that its going to be done my way. First you talk with them and then you talk with them and then you talk to them again and then if it doesn' t work you sit down and let somebody else play until they understand this is exactly what we are trying to accomplish. And typically when the kids see that, you know the group is always better than the individual and you have the tendency to win more games . . .

練習を通して、会話を通して私の哲学を伝えていくのです。改革では無く、哲学で、それに沿って行うのだと。苦戦している生徒には哲学に沿うのが一番なのです。まずは話す事、話し合い、話し合い、理解するまで見せて何を達成しようとしているかを理解するまでです。それを理解すると試合に勝つには個人よりグループだと分かるのです。

Q. もしバスケットボールにおいて個人でゴールを奪えたのにチームワークを重視してチャンスを逃し負けてしまうとしたら。こういった状況では？

A. Well it's a combination of few things, one coaches need to recognize their talent.

様々なことが考えられます。まずはコーチが選手達の能力を掌握していなくては行けません。

A. And you don't want to, what you try to do is get the best of each kids and mould the team, what's fun about here is you can every year say this is the . . . I am going to learn. We look at you ability and then work within that and when of the things we always preach is we want your talent to take over but within the team concept.

1人1人の能力を最大限に引き出しチームを作る。ここにいて楽しいのは毎年. . . を学ぶと言える事でしょう。いつもチームに教えている事は個人の能力をチームのコンセプトに生かすという事です。

A. Yes and we never, young people really do what you ask them to do. Young people I think want to please and these young people want to fight for you, if you make it an environment that's enjoyable, if you make an environment that they know the boundary. And if you make it an environment that is competitive, young people you know I think . . . good and they really want to do well by you and they want to do well for the coach and they want to do well for the team. In social they want to do well for each other, its making as good environment.

若い子は言う通りには動きません。楽しめる環境を作ってあげれば喜ばせたいと動いてくれます。境界線のある環境です。競争心のある環境では、コーチやチームの為に役に立ちたいと思います。良い環境ではお互いの為に良くありたいと思うのです。

A. They need to know what you expect and expecting, when you expect it and they need to be told about it again and again.

生徒は何を期待しているか、されているかを知る必要があります。何を期待しているのかは生徒に何度も伝える必要があります。

A. And then they need to know that you have when you are communicating, you need to make sure they need to know that you are communicating that you have very high expectations.

コミュニケーションをする中で、生徒はこちらが大きな期待しているという事を確実に理解する必要があります。

A. Mentally and physically, we are going to expect you to work very hard, we are going to expect you to be very focused, is that understandable, we don't expect you to be your group is . . . We have high expectations for our kids as a group, we have high goals and we want them to maximize your potential. And for some kids maximizing their potential is the NBA, some kids maximizing their potential is at high school. And everybody can go to the next level but that comes back to communicating to these kids, we think they can do and its by building a lot of communication, high expectations. Our job is to give them the best as long as they work hard.

精神面と、身体面です。全力を尽くす事、集中する事を期待するのはもちろんです。グループの一員として期待しているのです。高い目標に向かって個人の才能を最大限に引き出す。誰もがコミュニケーションを通して、次のレベルに到達できるのです。私たちの仕事は最善を尽くす生徒にはベストを与える事です。

A. I think the exercise tools is the process, just like it is in the classroom, it is repetitive and practicing, it is about the process and the end result isn't always going to be the best. You talk about winning and losing, its all process and you want to build and get better and better, if you do that eventually you are going to successful.

授業と同じように繰り返すこと、練習することが〇〇。結果は悪くとも過程が重要です。勝ち負けよりも過程です。徐々に良くなり最後には成功を得るのです。(TF)

インターミューラルに比較すればインタースカラスティックのほうがはるかに教育効果は高い。勝つことに固執するよりも学ぶことに集中する。これによって勝ちについてはついてくる。

Q. インターミューラルでの初心者にはスキルやメンタルの向上をどのように教えているのでしょうか？

A. Yes, it depends on the sport. So, in squash we have intramural program where the coaches have been varsity coaches. They were college players themselves, so they know the sport very well. There are other sports where its less instructional than it is just to organize volley ball and it's not they do some drills but they're not focused so much on teaching them as setting up a fun competition.

スポーツによります。たとえばスカッシュのコーチは一軍のコーチでした。大学でプレーしていたので熟知しています。他のスポーツでは教える事が少ない物もあります。例えばバレーボールなどは練習をする、教えるというより楽しいゲームを作るといふものです。

Q. インターミューラルのコーチとしてはスポーツを通して何を教育したいのでしょうか？

A. Much less so than the interscholastic program. It's much more making sure everything is done safely and you know there's no dangerous situations. In some ways, they're taking attendance and it depends on which program. Some are more instructional and some are more just being supervisors.

インタースカラスティックでは安全に行われる事を確実な物にし、危険な状況を作らない。出席をきちんととる事もありますし、指導するスポーツもあれば、監視をしているスポーツもあります。

Q. インターミューラルは見ているだけのことも？

A. Sometimes yes, sometimes they're doing more instruction and they set up drills but there's less emphasis on that than because some of the intramurals would be things like rock climbing which have very serious safety concerns. They have a lot instructions how to do this safely, others will do hiking, weight lifting and once they have the technique it's just supervising, making sure that kids are you know there.

そういうときもあります。時には指導をするときもあります。練習内容をきめたりすることもあります。ロッククライミングなどは安全が大事です。安全に行う為にたくさんの指導が必要になります。ハイキングやウエイトリフティングなどは一度技術を習得すれば監視をするのみになる事もあります。

Q. 最も大切なのは勝敗なのでしょうか？生徒の成長なのでしょうか？

A. I think winning, most people would focus on the winning what we think is that if you focus on students growing the winning takes care of itself, so they will be fine you know.

私は勝敗にあるとおもいます。殆どの人が勝ち負けにこだわります。思うには生徒の成長に重点を置けば自ずと勝ちがついていると考えます。

A. I mean as a coach I would say if you do the fundamentals well, you're teaching the kids, you build team spirit, then usually the winning you don't have to worry as much about it. I think young coaches is win, win, win, win, older coaches know if you focus on learning, winning will happen.

コーチとして子供に教え、チーム精神を作るなど根本的なことをしっかりと行えば勝つ事は心配事ではなくなると思います。若いコーチは勝つ事に固執しますが、熟練コーチは学ぶ事に集中することによって勝ちがついてくることを知っています。(CRM)

スポーツによる人格教育が最も重要であると思う

Q. ボーディングスクールでスポーツを教える事の重要性はどのように説明できるでしょうか？

A. Well, I think there's probably different levels. I think philosophically we think it's important to develop the whole person. So, physically but also the character lessons that one gets from sports, so I think that's the most important. Beyond that we know it's important for some kids for college and it's not most kids, it's a small number but some kids that will be what we call 'hook'. It's a way to get them entrance into some very good universities.

レベルによって違いがあります。哲学的には人格を育てるという重要性があります。スポーツをすることによる人格教育が最も重要だと思います。その他には一部の生徒には大学入学において重要となります。多くはありませんが何人かの生徒は良い大学に入る為の“フック”つまり仕掛けとなるのです。(CRM)

スポーツプログラムは外に出ることを助け、コミュニケーションをとることから回避できない状況を創りだす。このことがテクノロジーに頼りがちな状況による弊害打破に役立つ

Right, I think I will agree and they, students today are their communication skills, verbal communication skills are weak. We encourage them to, rather than send emails to those see people to; we do that as adults toss as well, I will send it as an email.

同感です。生徒のコミュニケーションスキル、バーバルスキルはとても弱いです。メールを送るより直接会う事を勧めますが、大人としてもメールに頼りがちです。

I will actually what sent to office. You may send me the email. I will print it, take it with me walk to their office and say, no I will talk to you. You know, when we try to get students to do that as well, don't email people that you can go down the hallway and talk to. Public speaking, holding yourself well, looking people in the eye when you speak to them these are all things we try to teach them. And the dormitories, students who play Facebook or play video games all day long, we will go in after them and make them you know, leave the dormitories and that includes American students, Chinese students, German students, and Japanese students, it doesn't matter. We work hard to go get them and force them to come out outside. I think that's a big problem. When I was young to go outside and be outside and get exercise and so on. You know, so we actually think sports program helps them to get out, to communicate with each other, we force them to communicate each other. We put in good situations, bad situations and to work those types of things out without using technology as a clutch or part of their tools.

メールをもらおうとプリントアウトしてそれを持って会いにいきます。生徒にも直接会いに行く事を勧めます。自分を持ち、相手の目を見て会話をすることを教えています。Facebookやゲームに没頭している生徒には寮の外に出します。アメリカ人、中国人、ドイツ人、日本人、関係ありません。私が若い頃は外で運動をしたものです。だからスポーツプログラムは外にできることを助け、コミュニケーションをとることから回避できないのです。(WMA)

優秀な選手が素晴らしいのではなく、チームが優秀であることの素晴らしさを優先に教育する

Right, right. It's a consent problem with specially you know, in all countries but United States the you know, the super star player, they watch so they, that's their example. But even in new sports here in many sports they are taught that the most important thing for you at the higher level is to advance yourself, make yourself better, make yourself more remarkable, more courage. And I think that's a huge problem for coaching because you get all these people on a team. All they merely talk. I think the child's fault. It's the coaches sometimes abuse sports with parents. We have taught them to be selfish and so when they come here we have to break that and we have to coach them much and teach them to be more focused on the team. So it is a very big problem, especially for the better athletes, the best athletes we have, it's more of a problem for them because they have been taught that they are great and everybody tells them that they are great and then they come here and we make you the team comes first not you and they have to understand and all of them can do that.

スーパースターをテレビで見て模範とされてしまう。新しいスポーツでも多くのスポーツで最も大事なことは自分を上達させること。それはコーチをしていて大きな問題です。コーチと親がスポーツをだめにしている事もあります。自己中心的である事を教えてしまったので、ここにくるとチームに集中する事を教えなくてはなりません。優秀な選手は素晴らしいと言われて育ってしまったのでここにくるとチームが最優先である事を理解しなければならないのです。(WMA)

ヒーローとしてのプロスポーツアスリートとの兼ね合い

→あくまで教育としてのスポーツという位置づけである。その信念に忠実でなければならない。生徒たちには、常に自身を失うことなく邁進することを伝えなくてはならない。

Q. 沢山の子供達がプロスポーツ選手をヒーローとして見えています。能力があり、羨ましいがられる一個人としてのプロスポーツマン。そういった中でチームワークを教える事と才能のあるプレイヤーとして育てる事には違った倫理があるのではないのでしょうか？

A. Right and that is definitely a challenge because things happen in professional sports level all the time that you can. . . an educator. But you just got to continue to follow your beliefs, you know constantly remind the kids that that's not who they are. That they can strive to be that kind of talent on the court but you just have to really continuously push where you believe as a coach and educate it.

ええそうですね。確かに挑戦です。プロスポーツのレベルでは教育者として. . . が起こります。しかし自身の信念に忠実でなければなりません。生徒達には常に自身を失うことなく邁進する事を伝えなければ行けません。(TF)

競技の必要性は非常に高く、チームに所属することを強制します。逆境や負けを克服して正しく勝つ事を理解する！

競技の必要性はとても強く、固いといえます。全生徒が競技をする事を前提としております。つまり3学期間、秋、冬、春です。フレッシュマン、ソフモアはチームに所属し、3つの競技をしなければなりません。ジュニアとシニアは2つのチーム競技です。

So we believe that, we force them to be on teams because we believe in competitive so they have to work with coaches, work with teammates, compare, practice mentally and physically develop, learn to meet with or work with other people, with their teammates, deal with adversity, handle losing, understanding how to win correctly and then working, even traveling with the team. All of those dynamics that we believe are important for student, student athlete.

チームに所属する事を強制します。なぜならコーチ、チームメイトとともに活動し、比較したり、練習したりして心身ともに成長するからです。仲間と協力し合って課題をこなし、逆境や負けを克服し、正しく勝つ事を理解するのです。これら全ての事はアスリートにとってとても重要です。

Q. インタースカラスティックスポーツはいくつあるのでしょうか？

A. We have in the, we have six fall and then seven in the winter. Eight lets see three in spring. . . . 21, And that is, that also includes, for instance in basketball we have four boys teams. And three girls teams. So we have seven basketball teams. In swimming is coed boys and girls. And in other sports, baseball we have 2 teams. Lacrosse we have boys and girls, hree teams. Tennis we have four teams. So there is many few kind of teams there is, it does. So it's very good.

秋に6つ、冬に7、8です。春に3つ。全部で 21です。そして例えばバスケットボールは男子が4チームあります。女子は3チーム。全部で7チーム。スイミングは男女一緒に。野球は2チーム、ラクロスは男子と女子。Tテニス4チーム。沢山あります。良い事です。

Q. インターミューラルはどうですか？

A. They, you are not allowed to do our activities. That's what these are non competitive offers. So I mean service, fitness, outdoor adventure, you be a Manager Tychi. Fear, working in. . . magazines, those are activities. So juniors and seniors you are allowed to do, you can do, you have to do one.

フレッシュマンは出来ません。競技以外の、例えば、社会奉仕、フィットネス、野外アドベンチャー、太極拳のマネージャー、、、などの活動です。ジュニアとシニアは1つで来ます。
(WMA)

競技経験は授業の延長、有能な先生は有能なコーチでもあり、競技の経験が豊富で、専門知識、コミュニケーション能力、チームの団結力を創り上げる能力がある。

Athletic experiences as an extension of the classroom. And that's a different way of looking at it than a traditional public school PE class where, I went to public school, growing up so my memory of gym class was to exercise, right. More of intramural basket ball or gymnastics or volleyball or things like that; whereas here, sixty, seventy five percent of our students are involved in interscholastic team sports at various levels. University, Junior University you know, thirds, that's what we would call it. And we think that the characteristics of a good teacher are the same skill sets of a good coach. Right, knowledge about field, ability to communicate, ability to build, what I would call team chemistry; so most good teachers who have had some experience athletically in colleges in high school, typically are interested to round out their professional job scope and coach 1 or 2 athletic seasons.

競技経験は授業の延長なのです。伝統的な公立学校とは異なる考え方です。私は公立学校出身ですが、私の記憶にあるジムクラスは運動をする事でした。インターミューラルでのバスケットボール、バレーボール、体操などでした。しかしここでは60から70%の生徒がインタースカラスティックのチームスポーツに様々なレベルで参加しています。有能な先生は有能なコーチであると思います。専門知識、コミュニケーション能力、チームの団結力を造り上げる能力があります。有能な先生は競技の経験があり、1、2学期のコーチングをする意欲があります。(DA)

何らかの形でスポーツが出来ない子たちには、チーム経験が得られなくても最低限健康維持を確実にできるようにスポーツには取り組ませる。

They may be simply interested in academics. Or we ask them because then they' re not, they are the ones that are not electing to participate in interscholastic sports or perhaps not participating in recreational sports. Recreational sports do substitute in some measure for a gym class. So we ask of those students we have a fitness center. So a student who wants to practice the Chellos over and over and over again to be become very refined and very skilled in that, we ask that student a least to pursue physical exercise, running outside in our fitness center. So that student may not get the full benefit of the team experience but we are making sure that, that student pursues wellness.

勉強のみに興味がある場合もあります。インタースカラスティックスportsやリクリエーションsportsに参加していない生徒には体力、健康維持の為にフィットネスセンターでの活動を勧めます。チェロの練習ばかりにするのではなく少なくとも走るなどの運動を勧めます。チーム経験の利益を十分に得られないとしても健康維持を確実にしたいからです。(DF)

スポーツ活動では、リーダーシップスキル、チームワーク、特にチームの決断を確実に得うることを学習する！

Q. ボーディングスクールではスポーツで何を学んでいると言えますか？

A. Well you definitely gain leadership skills, team bond. Those teams are kind of like play all together during the seasons because you are always with your friends and team. So you really get to know each other pretty well, you also do exercises together so if you' ll do team work outs or run up the mountain within your team so kind of building that relationship that way.

リーダーシップスキル、チームの決断を確実に得る事ができます。チームに属し、友人、チームメイトとシーズンを共に過ごす。お互いを良く知る事になります。運動を共にし、チームワークの絆が強くなる。

A. Like tomorrow is Wednesday so we have games tomorrow, so we would have team breakfast. So everyone wakes up before school everyone goes to the dining hall and have breakfast together as a team at one table. So and you' re with your team after school so today I practice right after school, so you' re with them for that long and you go dinner with them. So you' re with your team a lot during the day.

明日は水曜なので試合があります。チームメイトと朝食を食べ、学校の前に一緒に過ごし、学校の後も練習をし、夕食を共にする。チームとの時間は長いのです。(BKS)

⑤ アスレチック・ディレクター

アスレチックディレクターの仕事

→スケジュールリング（競技会の日程管理）、コーチ人事、雑用（遠征の手配、設備管理、ユニフォーム等々）

Q. アスレチック・ディレクターとしての責務は？

A. Well I mean just to start over seeing whole athletic program is scheduling of all contests, the assistance and the hiring of our coaches with our faculty. The little integrities like ordering buses and tourist travel, making sure we have the proper equipment and re ordering and uniforms

全ての競技プログラムの管理はコンテストのスケジュールリングやコーチの雇用が含まれます。バス、遠征の手配、設備やユニホームの管理も行います。（TF）

⑥ コーチ

コーチ／キャプテン間のコミュニケーション

→学期初めにミーティング、ゴールを設定し、チームとして何が必要か、何が重要かを話し合う！

Q. ボーディングスクールの歴史や伝統はイギリスのパブリックスクールから来ているといいます。厳しい伝統的なスポーツを通しての教育プログラムをどう思いますか？

A. I mean that' s the huge piece of our job and that is something that we feel is really important. Its interesting at the beginning of each season you are meeting with all the captains and the coaches. And we have a set goals for this season, we have to talk about what is important, what they want, what' s the most important piece of their team. And the conflict that always comes up with sportsmanship and representing schools and so when you have your head coaches and your captains making those statements and sharing them with the team, I think that' s the great start to what we do.

私たちの責務の大きな部分だと思います。とても重要だとおもいます。学期の初めにキャプテンとコーチのミーティングがあります。ゴールを設定し、チームとして何が必要なのか、何が重要かを話し合います。スポーツマンシップにおける紛争やスクールを代表するなど。コーチやキャプテンの意見を聞きチームと分かちあうこと。私たちの責務の大きなスタートです。（TF）

コーチのスポーツ活動における着目点

→勝敗も重要、しかしそれ以上に 生徒がシーズンを通してどのように成功、発達し、試合を楽しめたか？が重要。あるいはスポーツマンシップに乗っ取り最高のコンディションで臨めたかどうか。用は正しい道のりで成長すること！

You know we also we spend a lot of time talking to the students about the importance of sportsmanship from our fans, from the students at the game. What is good to cheer about, what is wrong and so this is a message that we give at the school continuously. TAFT is seen in the public through how we perform athletically one. . . People don' t see our students in the class room, they see our athletes in the field and so how we carry ourselves on the field and how we dress and how we show up really shows the public what we are all about.

スポーツマンシップの重要性について生徒達と話をします。一般人はクラスの中の生徒を見る機会はありませんが、フィールドでのアスリートを見る機会があります。フィールドでの態度や服装は一般の方に私たちを印象付けるのです。

Q. 勝ち負けについてはどのように教育しているのでしょうか？

A. I think you know my message to our coaches is that the goal heading into each contest is to perform at the highest level in a sportsman like manner. And doing that attempting to win the contest, we do not judge a team success or a coaches success on his . . . strike rate. We focus more on how the kids have developed through the season, have they improved, are they enjoying their time in competition. I mean I am not saying that winning isn't important because I hope my Basketball team wins today but we want to make sure we do it the right way.

私のコーチ達に対するメッセージは試合にてスポーツマンシップに乗っ取り最高のコンディションで臨むという事です。試合に臨むということ、チームやコーチを. . . で評価しない。私たちは生徒がシーズンを通してどのように成長、発達したか、試合を楽しめたかという事に重点を置いています。もちろん勝敗は重要ではないと言っている訳ではありません。バスケットボールチームには今日の試合に勝ってほしいですが、正しい道のりで到達することを確実にしたいのです。(TF)

牋の為に叱ることはあるが、技術ができなくて叱ることは無い。

(身体能力は十分にあるのに取り組まない！)

Q. 牋は寮生活、スポーツは人としての成長とか、何か違うものになっているのでしょうか？

A. Yeah and I think that what we are trying to do at sports is what we are trying to do with our students, in a 24 hr day we trying to make them good citizens, we are trying to make them better people. We are trying to, the kids who come to TAFT are talented kids in lots of ways. They are great kids, they are motivated kids and a lot of them are athletics so we are trying to teach them the right way to become better people.

スポーツを通して生徒達には良き市民である事を、良き人間である事を学んでほしいです。TAFTに入学してくる生徒はとても才能があります。やる気があり、運動神経も良い。私たちは彼等にはさらに良き人間になる為の正しい方法を教えたいのです。

Q. コーチは生徒をしからないのでしょくか？

A. Yeah I mean if a student is acting up they do, they do discipline but if something really egregious has happened then it goes to the schools discipline system. But yes the coaches are disciplining actions that do not represent our school or team . . .

もちろん生徒が良くない行動、学校やチームの生徒としてふさわしくない行動をすればしかられます。また一大事が起これば協議会にかけられます。

Q. 勝ち負けについてはどのように教育しているのでしょうか？

A. I think you know my message to our coaches is that the goal heading into each contest is to perform at the highest level in a sportsman like manner. And doing that attempting to win the contest, we do not judge a team success or a coaches success on his . . . strike rate. We focus more on how the kids have developed through the season, have they improved, are they enjoying their time in competition. I mean I am not saying that winning isn't important because I hope my Basketball team wins today but we want to make sure we do it the right way.

私のコーチ達に対するメッセージは試合にてスポーツマンシップに乗っ取り最高のコンディションで臨むという事です。試合に臨むということ、チームやコーチを. . . で評価しない。私たちは生徒がシーズンを通してどのように成長、発達したか、試合を楽しめたかという事に重点を置いています。もちろん勝敗は重要ではないと言っている訳ではありません。バスケットボールチームには今日の試合に勝ってほしいですが、正しい道のりで到達することを確実にしたいのです。(TF)

牋の為に叱ることはあるが、技術ができなくて叱ることはない。

(身体能力は十分にあるのに取り組まない！)

Q. 牋は寮生活、スポーツは人としての成長とか、何か違うものになっているのでしょうか？

A. Yeah and I think that what we are trying to do at sports is what we are trying to do with our students, in a 24 hr day we trying to make them good citizens, we are trying to make them better people. We are trying to, the kids who come to TAFT are talented kids in lots of ways. They are great kids, they are motivated kids and a lot of them are athletics so we are trying to teach them the right way to become better people.

スポーツを通して生徒達には良き市民である事を、良き人間である事を学んでほしいです。TAFTに入学してくる生徒はとても才能があります。やる気があり、運動神経も良い。私たちは彼等にはさらに良き人間になる為の正しい方法を教えたいのです。

Q. コーチは生徒をしからないのでしょうか？

A. Yeah I mean if a student is acting up they do, they do discipline but if something really egregious has happened then it goes to the schools discipline system. But yes the coaches are disciplining actions that do not represent our school or team . . .

もちろん生徒が良くない行動、学校やチームの生徒としてふさわしくない行動をすればしかられます。また一大事が起これば協議会にかけられます。

Q. 具体的にはどんな行為？

A. For example sort of what a coach might do, kids swears on the court, swears in competition, if that player is coming out of the game he is been sat down. Conversations happening after the game and the students are going to have to earn their way back to good stats. Student in the game does something un sportsman like pushes the kid, you know gets the yellow card and [Unclear 34:39] that keeps coming out of the game and conversations happening.

例えば、試合中に汚い言葉をつかったりなど。もしゲームから外された生徒はゲーム後にコーチと話があり、努力をしないと認められません。スポーツマンらしくらぬ行動、例えばイエローカードなど。

Q. 技術の習熟について叱ることはあるのでしょうか？

A. Yeah I mean for example if I am teaching the kids something on the basketball court and the kid continuously doesn't do it right and we are talking more about the mental side than the physical ability to do it. Then yeah I am going to howl at the kid because they do expect them to learn, so yeah there is that form of discipline to and I am going to raise my voice on my athletes. Especially if mentally they aren't performing, I can't expect them to do physically do things they can't do, I can try to teach them how to do it.

ええ、例えばもし私がバスケットボールをコーチしていて生徒は何度も正しく出来ない、でも身体能力というよりも精神面でのことです。そんなときは怒鳴りつけます。生徒には期待していますから。選手に声を荒げる、そういう規律もあります。とくに精神的に出来ていない場合です。身体的に出来ない事は期待できませんが、どうすれば出来るようになるかを教える事はできます。

Q. チームワークを無視したようなプレーに対しては指導するのでしょうか？

A. Absolutely. Yeah team work is a huge piece of what we do.
もちろんです。チームワークは私たちの仕事の大きな一部です。

Q. チームワークが悪くなくても勝てた時は？

A. Yeah that's a tricky one but you know what more times than not when you don't play as a team you are not going to win. So I think that takes care of itself.

難しいところです。それよりもチームワークが悪くないと勝てないことがほとんどです。その事実が解決してくれます。

A. It is, that is that situation you just described that's a tricky one because I have had kids who try to do too much and sometimes it works. But more times than not

難しい質問ですね。実際選手が個人プレイをして勝ってしまう事もありましたが、それはまれです。(TF)

コーチたちの目標はあくまで生徒たちが素晴らしい経験をしたと思うこと！！勝敗はそれを手助けしてくれるものにすぎない。勝敗に価値を見出す商業スポーツとは異なる。

Yeah right, right. Winning at all costs. Sure, that's our, this may not be unique to the United States but the larger culture, popular culture has promoted that message, which we resist meaning that schools like this have to be counter cultural.

そうですね。勝つ為には何でもする。アメリカでは当たり前ですが、文化がそういったメッセージを促進していると言えます。学校としては抵抗し反対の文化を創りたい。

There are T-shirts in the United States there be second place is for losers.

敗者は2番手だ。と書かれたTシャツがありますよ。

That's a bad degrading example of the, what the dominant culture the message is and you know, there is not probably not a better educational lesson than responding to defeat right. We are aspirational, we want to win. But that's, and that's the nature of competitive sports. You want to be aspirational. Then you should be prepared for the outcome that you will not win all the time.

それはなんともひどい文化的メッセージですよ。向上心をもち、勝利に向かうのがスポーツのあるべき姿です。いつも勝てる訳ではない事実に向き合うのです。

Q. われわれは、必ず勝てるわけじゃないんです。だから、勝てない時の精神を鍛えることにこそ、価値があるんじゃないですか。それが教育ですよ？

A. True.

そうですね。その通りです。

A. Well, our number one goal with our students is to prepare them to be, you know, yes skilled and I mean skilled in the greater sense of the word and not just in sports but to be leaders, to be problem-solvers. So if we hold on to the, what you call the spirit of the game value. You know that, it's the joy of sport. I would say that we have, you know, we call varsity sports, junior varsity sports. The lower you go through this system the less emphasis is placed on winning. So in varsity sports is not win at all cost? That is not the, when I say the coaches at Deerfield, your number one goal for your season in your sport should be a great experience for your athletes. Winning helps that but if you won, for example 5 games and you lost 10 games. If your team members still come out of that season say that was a great experience, then I know that that coach has done a wonderful job.

学校としての目標はスポーツのみならず、生徒を世界で通用するリーダー、問題解決者として育てる事にあります。ゲームの価値はスポーツを楽しむ事。スポーツのレベルが下がるにつれ勝敗に置ける重要性が少なくなります。コーチ達の今学期のゴールは選手が素晴らしい経験をする事にあります。勝利はそれを助けてくれますが、5回勝ち、10回負けたとしてもチームが素晴らしい経験をしたとおもえるならコーチが素晴らしい仕事をしたと言えるでしょう。

A. It records a long-term view why you are it's not just about what happens today its, what's happens today will matter for that student in 10 years.

長期展望なんです。今日の出来事は10年後に重要なんだと。(DA)

高い競争率を越えて入学する生徒に対し、有能なコーチを揃えているのでコーチの影響力は非常に大きい。そのため、しっかりとスタンドプレーよりもチームワークの必要性を教授できる。

Q. チームワークの重要性と技術のある個人プレイの両立についてはどのように考えていますか？

A. Well, if you look at our best coaches and basketball will be one of our best sports here if you watched the team play, it's entirely they're very disciplined; passing, fast movement, it's entirely about the team. We have good players and that helps but I think the best coaches emphasize just that team work, discipline, learning through systems rather than just one person with a star.

わたしたちのバスケットボールチームを見ると分かると思います。チームは規律正しく、パスを繰り返出し、スピードがあり、完全にチームワークです。上手いプレイヤーはそれを補助しますが有能なコーチは一人のスタープレイヤーより、規律、システムから学ぶことに重点を置きます。

A. Our basketball coaches are very successful I think because he has a system and he teaches the players and they execute very well. So, they're very drill, drill, drill until they have it.

私たちのバスケットボールコーチはとても有能です。思うには彼等はシステムを持って教えており、選手達はそれをこなす事が出来ます。あとは何度も出来るようになるまで練習を重ねるのみです。

日本では、さっきのインタースカラシップみたいなかたちで、高校のインターハイという全国大会がありますよね。結局、そこに向けて、各学校がチームワークも大事なんですけれども、もいかに中学校で活躍したスターを発掘して、自分たちのチームに入れてスター集団にするかという、そっちのタレント発掘にすごく頼っている部分があるんですよ。アメリカの場合もプロスポーツが発達していて、さっきのあれではないですけども、メディアでものすごくフィジカルが優れている選手を見るではないですか、目の当たりに。そうすると、子どもたちというのはそれを見ると、とりあえずスターにあこがれるわけで、スターがチームワークをすごい見ているなんていうのはなかなか見えないわけですね、メディアには映ってなくて。自分がものすごいプレイヤーで、ホームランをとにかく打てばいいんだとか、サッカーだったら、自分でドリブルしてシュートすればいいんだとか、そういうスーパー・スターを目指してやっていく中で、そういう指導というのは一つの弊害にならないかって。日本では、だからそれを見るから、指導者側もそういう選手を引っ張ってくるから、そういう選手ありきの集団が、結局勝っていつてしまう仕組みになっちゃう。チームづくりというよりはむしろ、そういうもののほうが何か主流になってしまっているのがあるんですけども、アメリカでも少なからず、そういうプロスポーツがあったりすると、教えた部分というのが弊害になってこないのかというのは。

Q. 日本においては常にスタープレーヤーを発掘し、チームに勝ちをもたらそうとする傾向があります。チームワークの精神とは相成らないものもあります。更にメディアもスタープレーヤーに注目するので子供達の目に入るのは実力のある一個人のみになってしまう傾向もあります。この点についてはどう思いますか？

A. That's probably, you can find that in American schools too.

多分アメリカの学校でも見る事ができます。

A. What I can say is because this is a very competitive school to get into; you know maybe one out of five applicants will be admitted to this school, it obviously helps at this level too. Our coaches want to bring in good players, so that is an advantage to applying even at high school level just as it would be in the university if someone is a talented athlete. But I think at this age with younger kids, it's easier to sort of to get them to buy into unless they want to come here. So the coach has a lot of you know influence in shaping them into a team, that's the challenge I think as we have the same issue with the kids wanting to be stars but you have to mould them into a team unit to be successful.

私に言える事は、ここはとても競争率が高い学校ということです。5人に1人の倍率です。コーチは優秀な選手が欲しいので高校や大学レベルでは引き抜きのような事は有効かもしれませんが。しかし若い子供たちには希望して入学してきてもらうのが最適だと考えています。そうすることにより、コーチの影響力をふんだんに使ってチームをまとめる事が出来ます。スターになりたい子供達がいるのはここでも同じです。しかしチームにとけこめないと成功はありえません。(CRM)

コーチは誰よりも生徒と過ごす時間が長い！役割は重要である。

Q. コーチと生徒のコミュニケーションについてはいかがでしょうか？

A. Well the way I think about it is our coaches are spending more time with the kids that hey coach than classroom teachers are with the kids they teach or house masters are with the students in their dorm. So, often those are the most important relationships between adults and students in the whole school.

コーチは担任の先生よりも、学生寮のハウスマスターよりもだれよりも生徒と過ごす時間が多いのが事実です。ですので学校での生徒と大人の関係では最も重要なのです。(CRM)

⑦ 教員

教員は何らかのプログラムに従事しなくてはならない。

→3学期間のうち2学期間は、インターミューラル、スカラスティック、演劇、ダンス、社会奉仕活動のいずれかに参加しなくてはならない。

→人事基準には、課外プログラムで活躍できることが期待されている。

→経験なき教員は、経験ある教員とくむ！

→他教科を専門としながらスポーツ指導をする！これが常識

Q. 音楽や、演劇での先生の役目は？

A. I mean they are in charge, so all of our faculty are asked to participate into the three seasons in the actual curricular programs. So most of that is the interscholastic sports, the intramural sports, the drama, the dance, the community service, two of the three season we ask our faculty members to participate. Some of them are experts in their field, you know the people who are running programs, running varsity teams, they are really knowledgeable. We have some lower level coaches who aren't quite as knowledgeable but have a pretty good sense of the game or the activity. And then we also have people who have not really participated before who are working with the more experienced people. So when we hire faculty here the expectation is really be part of the extracurricular program.

先生全員が何らかのプログラムに従事しなければなりません。3つのうちの2学期間はインタースカラスティックスポーツ、インターミューラルスポーツ、演劇、ダンス、社会奉仕活動に従事しなければなりません。何人かは専門知識のある先生もいますが、低いレベルを任されている専門でない先生もいます。経験の無い先生は経験の有る先生と組んで取り組む事も有ります。ここで雇われるという事は課外プログラムで活躍することに期待されているという事なんです。

A. Its one of the real challenges for in the hiring process here, we are not just looking for Chemistry teacher or a Math teacher. We are looking for someone who also can help in other way in the afternoon practice.

雇用での本当の難点は科学や算数の先生を選ぶのではなく、いかに午後の活動で活躍してもらえる先生を雇えるかという事です。

Q. 契約は1年間？

A. It is although its understood if you are doing a good job you are coming back the next year, you have to get, you really have to mess it up to not be invited back.

良い仕事をすれば来年も戻って来れます。大失敗をしない限り。

Q. いい結果というのは競技の結果？

A. You know you have to meet expectations which mean evaluated, you know so you have to be in good standing but most people who would ride the TAFT if they leave TAFT they are leaving because they are choosing to do something different. Not because we are telling them-

期待に応えなくては行けません。そして評価されます。TAFTを去る人は他に違う事を選んだからであって、解雇された訳ではありません。

Q. インタースカラスティックスポーツ、インターミューラルスポーツのコーチは違う？

A. Absolutely the interscholastic coaches are much more knowledgeable and intramural they're, not to say they are not knowledgeable because some are but they just don't have the expertise that interscholastic have.

もちろんです。インタースカラスティックコーチは専門知識があります。インターミューラルコーチは、知識は有りますが専門では無い場合もあります。

Q. スポーツのみを専門に教えている先生はいますか？

A. No.

いません。

A. You know, so you are either a teacher, you work in. . . You are a college counselor, you know there are other administrative positions within school also coaching but it's the faculty are coaches. We only have one non faculty member coaches and that's the guy who runs our . . . program.

先生、. . . で働いている、カウンセラー、事務職がコーチを務めている。 . . . プログラムを運営している学部の先生ではないがコーチをしている男性がいます。(TF)

教員人事は、ティーチング（学業）、コーチング（スポーツ）、寮生活の3つの観点で行われ、専門性よりも総合的に優れた人を選ぶ！

Who I think is going to be an effective coach, I raise my hand. I say, I would love to have that person. So it's a dialogue amongst administrators. So for an example: If we have an opening in Chemistry, so we are going to have a Chemistry teacher but hopefully we going to look for a Chemistry teacher that has an interest and a passion and some skill in sports. So we have a nickname for this. We call it triple threat: Teaching, Coaching, Dormitory, right. So that means that you need to know how to relate and instruct students on three levels in a boarding school. And the reality is that, you need to know two of those well and then we are going to help you.

コーチとして効果的だとみなすと、この人には来てほしいと意見します。管理者同士の相談です。もし科学の先生を雇うとしたら、科学のみならず、スポーツへの情熱と技術を持った人を捜します。3つの脅威と呼んでいます。教鞭、コーチング、寮生活です。ボーディングスクールでは3つの分野で生徒達とつながり、指導できなければいけないのです。3つのうち2つにたけていけばなりません。残りの1つは私たちが手助けをします。

Q. どのようにして選ぶのでしょうか？

A. That's a great question. A little, so we bring them to campus. We see their resume, right.

良い質問ですね。履歴書をみて、キャンパスに来てもらいます。

A. And then we get a big stack and then shrink it and we bring 3, 4, 5 people for interviews for the same position and then we collaborate as administrators. So if I am representing athletics, the department chair of academic department, the Dean of faculty who is in charge of hiring, and we simply, it's a political process. So we express, you know, preferences. I like this person more than that person. Here is why if we have a significant need in a particular sport I'll express that, that person first and foremost had to have presented as a capable teacher. So yes of the triple threat the academic still tops out sports to number 2, residential as number 3.

会食をしながら3、4、5人のインタビューにしばります。そして管理者たちが相談をするのです。スポーツ部門、学習部門、雇用の責任者である学部長が話し合います。お互いが好みを言い合うのです。このスポーツに重要性があるのでこの人物がよいとか。ここでも3つの脅威が重要です。学問に最も優先順位があり、次がスポーツの必要性、最後が住居です。多彩な価値を審査するので

A. Yes, we might select people that went to more colleges with better reputations. We like candidates that went to liberal arts colleges because a liberal arts education makes somebody what I would call, if you know the word oxy moron. Okay, an oxy moron is when two words contradict with one another like Jumbo shrimp. To this is contradiction. So a liberal arts graduate is what I would call a talented generalist. Not a specialist.

有名大学を卒業した人物を雇用することもあります。ここではリベラルアート大学卒は好まれています。なぜならリベラルアート教育はoxymoronを育てます。oxymoronは2つの正反対の言葉をさします。矛盾です。リベラルアート教育は総合的に優れた人物を育てるのです。つまりスペシャリストではありません。

Q. スペシャリストはあまりにも一元化しすぎる？

A. Narrow right. They may be wonderful biology teachers but this school needs them to be generalist but talented. So I hope that you are good biology teacher but I need you to coach baseball as well so.

そうです。狭い。優れた生物の先生だとしても、この学校が必要としているのは総合的に優れている人なのです。生物の先生、そしてバスケットボールのコーチもこなす必要がある。(DA)

教員の人事基準は職歴、学歴、学校のニーズ

Q. スタッフを選ぶときの基準は？

A. Their professional background, their educational background and our needs. For example hiring in American boarding schools is very precise, so because you provide housing. So for example say you have an apartment that's 1000 feet and you need a math teacher who can coach soccer. If they have three kids I can't hire them because the apartment is not big enough, if they coach football I'm not hiring them because I need soccer. It gets very precise.

職歴、学歴、そして学校のニーズです。アメリカのボーディングスクールでの雇用は住居を提供しなければならないのでとても具体的になります。例えば1000フィートのアパートに住み、サッカーを教えらる数学の教師を探しているときは住居のサイズ制限があるので3人の子持ちの方は雇えない。フットボールではなくてサッカーが出来る方が欲しい、などです。(SA)

コーチと教員は基本的には兼任が義務、人事基準もそうになっている。しかし、1軍チームには専属のプロコーチを着けるときもある。

Sure. Most of our coaches are members of teaching faculty. So, it might be a science teacher and a squash coach. So, when we hire, we're trying to hire people who are both very good academic teachers and also can do some coaching and for the top level teams what we call varsity teams, you only have people who really are quite proficient in their sport, they're quite good.

殆どのコーチが先生です。科学の先生がスカッシュのコーチだったり。雇用するときは良き先生で良きコーチである人物を選びます。そして一軍のコーチには専門知識のある人物を雇います。

We do have some professionals who only come here to coach, so boys basketball, girls soccer, swimming that's all they do because they have such specialty that we need to have such expertise.

男子バスケットボール、女子サッカー、スイミングはプロがコーチをしています。

Swimming, girls soccer, just a few though. Most of our coaches are teachers here.

スイミング、女子サッカーなど少しですが。ほとんどのコーチはここの先生です。

And there are schools like ours that have a physical education faculty but we do not. I teach history you know, other coaches teach science or English, so that's usually what happens at our school.

ここにはありませんが、体育教育学部がある学校もあります。私も歴史を教えています。他のコーチは科学、英語をおしえたりしています。

Q. コーチを外部から雇っている目的は？

A. Both but we're hiring them because there's nobody on our academic faculty who can fill that position well.

先生の中でそのポジションを出来る人材がいらないからです。

A. Because many of our best coaches are actually very good teachers as well. So, that's the goal but we can't always do that.

私たちの多くの有能なコーチは良い先生でもあります。それが私たちのゴールです。でも、要するに、必ずしもそれが当てはまっていないので、それで外部から先生を。コーチを呼んで来ています。

Q. プロというか、3種目の専属のコーチを雇うときの基準というか、何を見て選んでいるんですか。

A. Sure, we - all the teaching candidates who are applying to have a position at the school, one of the people who interviewees them. So, we look sometimes we know that we have to hire a new rolling coach that's a very you know unique qualification that not any one can just go coach rolling. So, we're actually looking for that when we're hiring in science and history and English, someone who can also do rolling.

ボートがコーチできる人材はとても特殊でだれにも教えられるという訳ではない。ですのでボートをコーチできる科学や歴史や英語の先生を探すという型になります。

Q. 先生を雇う過程はいつも同じであると？

A. Yes, yes. So I am one of the if we're hiring a candidate who is a history teacher, they would need the history department head, the dean of faculty, the athletic director and we all then discuss is this the best person.

ええ。歴史の先生を雇うときは歴史学部の長と体育ディレクターとの話し合いでベストな人材を選ぶのです。

A. Well, everyone is on a one year contract but usually most people are staying beyond that, so yes. It's very unusual that someone just would say unless there's a problem. But yes, tactically everyone's on a one year contract.

誰もが1年契約です。しかしほとんどがそれ以降も在籍します。問題がないかぎり在籍するのが普通です。

Q. インターミューラルも、スカラシップのやつも、基本的に全部のスポーツ・プログラムの現場には、必ず毎回、練習のときに教員が行くんですかね？

A. Yes, yes. They have to...

ええ。(CRM)

若手教員の育成において最も伝えることは、権威の保ち方、生徒との距離感の重要性。そして一貫性！

Q. 若手の教員を指導するにあたり重要視されていること、心配されている事がありますか？

A. Just to create separation from, that they are the adult and this is the student because they are so yet 24 years apart from each other. So make sure they watch other lines and they are very careful not to get too close to establishing authority and to do it right. Disciplined but still get the student to respect you and to work on doing that, to say the right things and to create the right environment for that.

大人と生徒の境界線を引く事です。お互いが境界線を理解し、権威には親しくなりすぎ無い事です。規律がある中にも尊敬の念を持たれること。正しい事を伝え、適切な環境を造り上げる事です。

Q. 若手のコーチが抱える問題を教えてもらえますか？

A. The biggest problems are establishing authority the right way.

正しい権威を確立させる事が一番の問題です。

A. To get students to respect you but not to dislike or fear you.

生徒から嫌われる、怖がられるのではなく尊敬されること。

A. Today' s coaches have to be, when I played sports in 1970' s and 80' s fear and intimidation.

私がプレイしていた1970、80年代は恐れや脅迫概念がありましたが、今は違います。

Q. 怒鳴ったり、叫んだり、体に触れてたりすることは？

A. No.

だめです。

A. Absolutely not.

絶対いけません。

A. So you have to, coaches have to coach much differently. What you say has to be carefully presented. You can' t touch them. You can' t yell at them and scream. So your behavior has to have changed tremendously and I think they have to learn how to treat students right and control their temper and be a role model, be the proper role model even the student is not acting correctly and I think those are the biggest, you know, to establish your authority and then to be consistent. Not to be too friendly and then try to establish authority later which never works and so it' s that initial approach be consistent, be consistent always and be fair.

コーチの教え方は変わったといえます。何を言いたいかは注意して表現しなければなりません。触る事はできません。叫んだり、怒鳴ったりもだめです。コーチの態度は大きく変わらなくてはなりませんでした。生徒を正しく扱い、感情をコントロールしお手本となるのです。生徒が言う事を聞かなくても威厳をもって一貫性を持って行動しなくてははいけません。親しくなりすぎてもいけません。威厳は後からは確立する事はできませんから。一貫性をもち平等である事です。（WHA）

勝つ為に学び、負けて学ぶ！それが苦難を乗り越える能力の成長に繋がる！現在の自分の教育者としての立場は、チームスポーツ参加による成長の証かもしれない。

Q. チームスポーツを通してどのように生徒を教育しているのでしょうか？そしてスポーツを続けるのみならず、将来的に社会に？スポーツ教育の哲学は？

A. That's great, that's a great question and I think that's the, that is the highest order value of physical education or team sport experience.

良い質問ですね。PEやチームスポーツ経験で最も価値のあることです。

A. And so that's that you've hit the chord. That's what Deerfield is all about. Meaning that there are alumni, those that have gone through Deerfield, gone through college, and they are in professional society. Almost to a person would say that the experience they had as athletes learning to win, learning to loose and how to deal with those things and being teammates so the communication skills, the resiliency, learning how.

まさにDeerfieldのすべてです。卒業生が大学を終え、社会に出る。アスリートとしての経験、勝つ為に学ぶ、負けて学ぶ、チームメイトとのコミュニケーションスキル、苦難を乗り越える事。

A. Resiliency is the ability to deal with hardship.

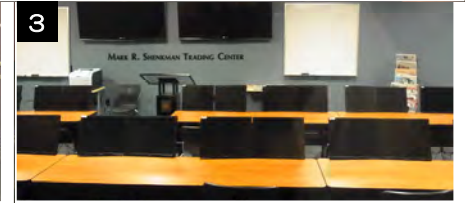
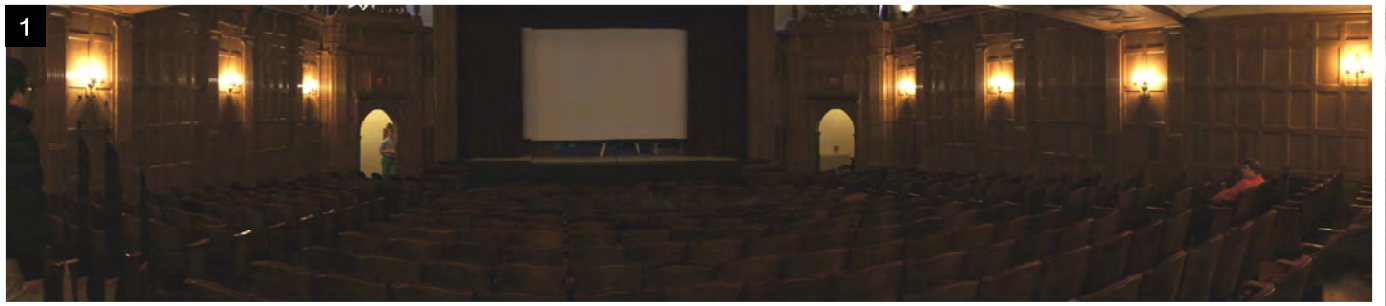
resiliencyは苦難を乗り越える能力です。

A. Not necessarily loosing but the challenge, the physical task, you know, the difficult practice. What say? Those are what we would consider life skills right? So sports is a, this may sound little bit corny but I believe it. Sports is a metaphor for life if all what I mean by that. So you know when you meet a 50 year old person who went to Deerfield 35 years ago, they will forget a specific you know, history lesson.

負けである必要はありませんが、挑戦、身体的課題、難問です。人生でのスキルです。ちょっと陳腐かもしれませんがスポーツは人生の隠喩と言えるのではないのでしょうか。35年前ここに通っていた50歳の人は歴史の授業は忘れていないかもしれません。

A. They will not forget you know the value of the team sport experience, they may forget how many they won, how many they loss but there is, that's what you need to, I can tell the mission of your trip here is to take that message home and to convince people that, and I say it's much more important in the interscholastic space than it is in physical education. To me it's about, you know, I need to know if I am the best player on my team then I need to appreciate the person on that team that is the least talented player. So that if I go into another season where I am not as proficient and I am the least talented player, I have gained perspective on what it means to be the star and the reserve player. The reserve player is somebody that doesn't; the coach doesn't put that person in very often. So that helps you whether you are a physician, whether you are business person, whether you go into education. As we chosen to do I wouldn't, I couldn't imagine being successful on my role a teacher or coach if I hadn't been in team sports growing up.

勝ち負けの回数は忘れていないかも知れませんが、チームスポーツで経験した価値は忘れないでしょう。今回のあなた方の訪問のミッションはPEよりもインタースカラスティックの重要性を持ち帰り、伝える事にあるのではないのでしょうか？私がチームの最優秀選手であるなら、そうでない選手を認めなくてははいけない。スタープレイヤーであることと控えの選手であることの両視点を持たなくてははいけない。医師でも、ビジネスマンでも、教育に携わる者でも役に立ちます。チームスポーツに参加して成長してこなかったら現在の教育者としての立場での成功はあり得ませんでした。(DA)



Mind (academic)



1.ホール (The Taft School) 2.ホール (Choate Rosemary Hall) 3.株式・為替演習教室 (Wilbraham & Monson Academy)
4.教室 (Wilbraham & Monson Academy) 5.授業風景 (St. Thomas More School) 6~9.図書室 (6.7.Taft 8.Berkshire
9.Wilbraham & Monson Academy)

Mind (academic)

ボーディングスクールでは生徒の創造性と独創性を育むため、スポーツ以外の科目教育についても力を入れて取り組んでいる。ここではボーディングスクールの国語教育、コンピュータ教育、芸術・文化教育、そして社会奉仕教育を取り上げ、各校の実態や生徒の反応についてみていきたい。

1. 国語教育

ボーディングスクールでは原則として週5日、国語（英語）の科目が開講される。基本的な読解力や作文力の要請を目的とした科目の他、文学、詩、さらには演劇など豊富な科目が準備されている。

チョート・ローズマリー・ホール（Choate Rosemary Hall）においては、1つの科目の中に複数のクラスがあり、連続してCや70点をとると下のクラスに落とされることになっている。またバークシャー（Berkshire）ではアドバンス、レギュラーそしてアドバンスト・プログラム（AP）に分かれている。APはそのボーディングスクールにおける最上級クラスであり、APクラスに入るためには別途試験が必要であるが、APの単位は大学の単位として認定されるほど高度なプログラムとなっている。

なお、英語を母国語としない留学生に対しては、外国人向けの英語教育としてESL（English as a Second Language）コースが準備されており、留学生に対する配慮もなされている。

2. サイエンス教育

ウィブラハム（Wilbraham & Monson Academy）では、GMES（Girls Engaging In Math And Science：女子のための数学と理科の活動）やレゴロボット工学などの特色ある科目が開講されている。チョートローズマリー（Choate Rosemary）では電気・電子工学、宇宙物理学、細菌学など多様なコースが開講されている。バークシャー（Berkshire）ではコネチカット州内の大学や研究所に出向き、実験を行っている。大学における実験では、生徒1人に対し大学からメンター1人が配属され、それぞれの研究課題を行っている。放課後に大学に行くときは、科学の教員が運転するバスに乗って大学に行くため、放課後のスポーツやアートの活動は休むことになる。

3. コンピュータ教育

ボーディングスクールでは、生徒の素養としてコンピュータの扱いが求められる。サフィールド（Suffield Academy）においてはコンピュータが教育の補助機器として位置づけられており、バークシャー（Berkshire）では、全ての教室にスマートボードとタッチスクリーンが設置されている。生徒は各科目の課題の提出をEメールで行う他、レポートに必要なデータの収集などもコンピュータを用いて行っている。

こうした中で、生徒のバーバルスキルが低下しないよう、ボーディングスクールでは面と向かい合っただけのコミュニケーションを重視している。ウィブラハム（Wilbraham & Monson Academy）では生徒に対し、Eメールを受信した際には、プリントアウトし、それを持って直接相手に会いに行くことを奨励している。また、生徒のFacebook利用に対しては随時モニターされており、写真、住所、電話番号の公開は許可されていない。こうしたメディアを利用したいじめについても、厳しく目を光らせている。

Mind (academic)

4. 芸術・文化教育

放課後にスポーツを行うことを好まない者は、代わりに音楽・芸術系や社会奉仕のプログラムに参加することが義務づけられている。アートやスポーツは人間性を豊かにするものとして認識されており、様々なプログラムが準備されている。

チョートローズマリー（Choate Rosemary）では、生徒の5～10%がミュージカルに参加しており、春の公演に参加すると単位が認定されることもある。バークシャー（Berkshire）では2011年にミュージックホールを新設した。ホール内には16トラックの録音スタジオが設置されている他、自分の楽器をしまっておくためのロッカーもある。ここではパンクやジャズバンドなどの授業も開講されており、音楽理論や楽譜の読み方も学ぶことができる。またアートクラスでは、証明センター（attesting Center）に作品を送らなければ単位が認定されない。

上記のプログラムは、正課プログラムより優先されることはない。正課プログラムにおいて必要要件を満たしていない者は、校外の活動に参加することが出来ない（NEPSAC資料参照）。また文化・芸術活動に偏り、生徒の体力・健康が損なわれないよう、ディアフィールドアカデミーなどでは、インタースカラスティックスportsやレクリエーションスポーツに参加していない生徒に対し、フィットネスセンターでの活動を勧めている。

5. 社会奉仕教育

社会奉仕精神を涵養するため、ボーディングスクールでは社会奉仕プログラムも行われている。学校では知識を蓄えると共に、リーダーシップを養う。こうした自らを高める努力と成果は、社会を良くするためにあり、そのためには他者や社会に尽くすことが重要であるとしている。

チョートローズマリー（Choate Rosemary）では、放課後の活動についてスポーツ芸術・文化系の科目の他、社会奉仕活動のいずれかを選択して行うことになっている。ウィブラハム（Wilbraham & Monson Academy）では、社会の存続と発展には、他者や社会に奉仕することが重要であるという考えから、全生徒に対して、卒業までに一定量の奉仕活動を義務づけている。



Mind (academic)

＜生徒の声＞

○公立校との違い

So in my public school you have kids that are very smart and not as smart or not like don't want to try hard or you want to try hard. The teacher has to take a middle and pushed the class along. But here everyone is at such a high level and the teacher challenges you and brings you to the new level and that's in everything, that's in academics, that's in sports myself nice being to good person and that's the kind they teach you here, which is I think phenomenal.

ここに来る前は公立の高校に通っていた。公立では賢い生徒とそうでもない生徒がいて先生はその中間をとり指導していかなくてはならない。ここでは全員のレベルが高く、先生は常に挑戦をもとめレベルを高めてくれる。学問、スポーツ、全てに対してです。驚異的だと思います。

(Wilbraham & Monson Academy・アメリカ人生徒・女)

○教員の生徒に対する姿勢

1つの授業にアートセクションがあって、ビジュアル・アーツとパフォーマンスと。その授業があって、僕はバイオリンを弾いているんですけど、そのあとに、放課後とかフリースタイルにプライベート・レッスンが受けられるんですね。先生方も大学から来た、結構有名な先生で。（他校では）たまに、あまりよくない先生がいて、質問すると「何でそれわかんないんだ」みたいなのを言うんですけど、バークシャー（Berkshire）ではそういうのが全なくて、僕が聞いてもたまに、すごい言っちゃあなんですけど、ばかな質問する子がいるんですけど、それに対してはすごくよく、ちゃんと教えてくれるみたいな。何も怒らない。

(Berkshire・日本人生徒・男)

○普段の生活について

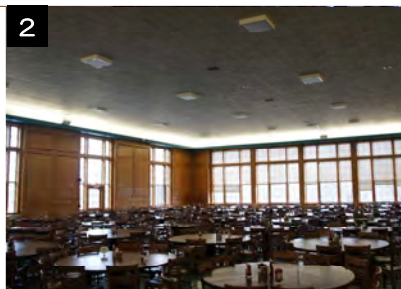
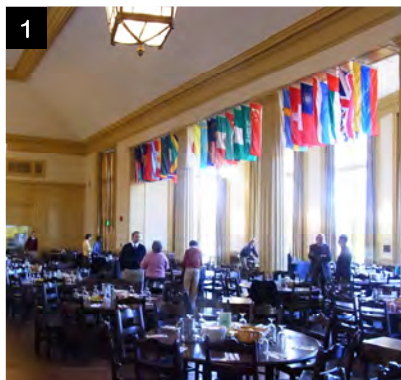
普段の生活は起きて8時から15時授業を受け、そのあとスポーツをします。土曜日と日曜日には対抗試合があるので、水曜日だけと半日でおわります。今日は水曜日だから12時に終わっているけど、普段は15時、終わってからスポーツしたり音楽したりします。試合の日は、学校を11時に出て、夜の11時に帰ってきてそこから宿題をやって、それで8時にまた学校にいきます。

(Berkshire・日本人生徒・男)

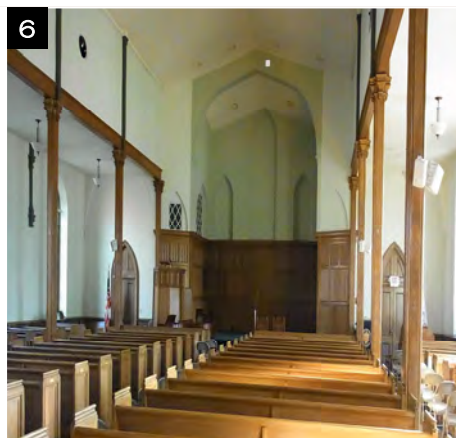
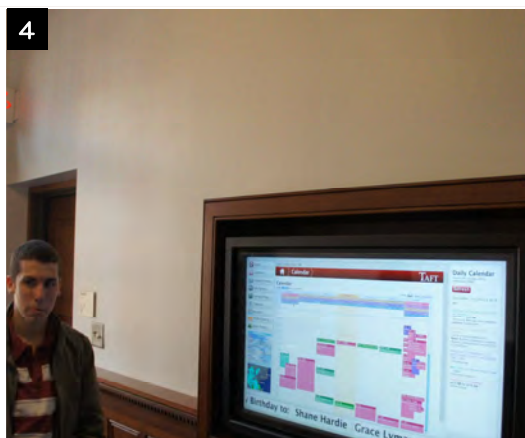
○クラス分けについて

減速されたクラスにいても劣等感はない。全科目が減速されたクラスに入る人はそんなにいない。1科目は減速されたクラスでも、違う科目ではすごいとか、そういう人が多い。その中でも、スポーツも勉強も全てすば抜けている天才みたいな人もいる。

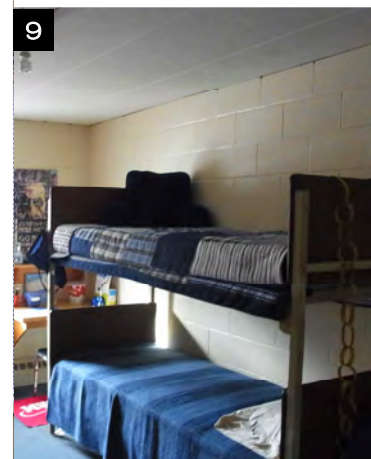
(Choate Rosemary・日本人生徒・男)



Spirit (social)



1. 昼食前の食堂 (Deerfield Academy) 2. 食堂 (Suffield Academy) 3. 昼食風景 (Cheshire Academy) 4. 学校全体のスケジュールを見ることのできるディスプレイ (The Taft School) 5. 食堂前に月の行事を示しているスケジュールボード (The Taft School) 6. 教会内部 (Wilbraham & Monson Academy) 7. 教会の外観 (St. Thomas More School) 8. 学生の寄宿部屋 (The Taft School) 9. 学生の寄宿部屋 (St. Thomas More School)



Spirit (social)

1. プログラム・カリキュラム

生徒には在学期間通して多忙な生活が要求されている。正課の授業の他に、スポーツ活動（練習および対抗戦）と自主学習時間がそれぞれ2時間以上が義務づけられている。また、各チームにおいて、それぞれの活動場面での技能評価が行われ、常に一定レベル以上の能力を身につけていることが要求されている。技能評価において不十分であるという評価を受けた場合は、在学の継続が認められないこともある。

また、各ボーディングスクールのポリシーに伴う規則が設けられおり、その遵守が挙げられる。ふさわしくない行動にはペナルティが科される。このことは生徒のみならず、異なる文化的習慣をもつ親に対しても同様である。

<生徒の声>

- ・日々の生活がとにかく多忙である。授業と宿題、スポーツの練習および対抗戦で平日の生活はすべて埋め尽くされる。対抗戦の時には帰宿が23：00頃になることもある。日曜日は宿題および大学の進学準備に充てられる。（Choate Rosemary Hall）
- ・毎日2時間の自主学習時間が義務づけられており、その際には部屋のドアは開放しておく。しかし、スーパーボールのときだけは免除。（St. Thomas More School）
- ・指定席で食事をするコミュニティディナーがある。（Berkshire School）
- ・寮生活は社交の場である。（Wilbraham & Monson Academy）
- ・規則は厳しいと思う。（Wilbraham & Monson Academy）
- ・寮生活の規律は、男子に対してはかなり自由であるが、女子に対しては門限や男女交際について若干の決まりがある。（Choate Rosemary Hall）
- ・食堂や休憩スペースの使い方に関して、上級生と下級生では違いがある。（Berkshire School）

2. ポリシー・理念・価値観

ボーディングスクールでは「正課の授業」、「スポーツ活動」、「寮での生活」のすべてが学びの場とされており、すべての場面を通して以下に示すような多様性の理解とそれに対する自己の確立が目指されている。

まずは、多様な活動場面での課題解決能力の養成である。上記の3つの活動場面でそれぞれの目標を掲げ、それらすべてが達成できるように努力させる。タスクを複数与え、各タスクを個別にあるいは関連づけながら自分なりの方策で解決していく能力を身につけていくのである。

次に、多様な価値観をもつ者と連携する能力の養成である。世界中から集まってくるさまざまな価値観をもつ仲間たちとの協同作業によって目標達成が目指される。この活動を通して、考え方や行動様式の相違点を把握し、自己の価値観を確立していくと共に自らに与えられた役割を果たす能力を身につけていく。

さらに、多様な文化的背景を生み出す時代の流れに対応する能力の養成である。それぞれの場面に応じたドレスコードや立ち振る舞いなど伝統的な習慣が徹底して指導されるのと同様に、IT機器の導入やそれらの積極的活用法の工夫などの最新の潮流も取り入れ、古きを重んじつつも斬新なアイデアも発想できるような柔軟な思考力を身につけさせる。

Spirit (social)

＜生徒の声＞

- ・授業以外にトレーニングが2時間、勉強が2時間あり、それぞれの生産性が高くないとノルマをこなすことができない。（Wilbraham & Monson Academy）
- ・自由はあるけど、いろいろやらなければならないことがあるのも好き。時間の使い方は自分で工夫はできる。（Wilbraham & Monson Academy）
- ・挑戦することは楽しい。（Wilbraham & Monson Academy）
- ・生徒たちはみな世界で活躍することを目指しており、負けず嫌いで努力家である。英語能力が低いと馴染めないという一面もある。（Choate Rosemary Hall）
- ・少なくとも24カ国から子どもたちが集まってきており、どの国の出身者もここでの生活に馴染んでいる。（Berkshire School）
- ・スポーツ活動のチームメイトとはとくに一緒にいる時間が長い（ある日の例：朝食時、授業前後のトレーニング時、夕食時）。そのため、関わりが強くなる。また、その中で協調性やリーダーシップを学んでいる。（Berkshire School）

3. 指導・教授法や学生に対する接し方

教員は、生徒は昼夜問わずいかなる場面でも成長するとして、それぞれの場面で教師として、コーチとして、アドバイザーやカウンセラーとして指導にあたる。これは教員の採用条件にもなっている。また、指導上最も大切なことは直接的なコミュニケーションを通して伝えることと生徒に「何を期待しているか」を明確に伝えることであるという。いかに生徒たちに多くのことを与え、充実した時間を過ごさせるかが重要である。

＜生徒の声＞

- ・ほとんどの先生はキャンパスに住んでいるので、いつでも会うことができる（Berkshire School）
- ・先生たちはみなフレンドリーで親切である。（Berkshire School）
- ・先生はいつでも質問に答えてくれる。（Wilbraham & Monson Academy）

4. 教員の質・能力向上への方法や工夫

生徒に多くの努力を要求するため、教員もすべての場面で常に改善を目指している。新任教員にはベテラン教員からの指導を受ける研修制度を設けたり、指導能力向上のためのセミナーへの参加のバックアップを行っている。教員も一つのチームとして、互いを高め合い、協力して生徒と向き合う。

5. 組織の運営体制

ボーディングスクールの最も顕著な特徴は手厚いサポートである。400名の生徒に対して140名のスタッフが対応にあたるなど、平均的に教員は1名に対し10名以下の生徒を担当する。

＜生徒の声＞

- ・学年が80名程度のため、他学年も含めてほぼ全員が顔見知りである。（Berkshire School）
- ・郵便のセクションがあり、各生徒が私書箱と番号を持っている。（Berkshire School）
- ・学生相談室がある。（Berkshire School）
- ・帰省は春、夏、冬の年に3回行っているが、帰国できないときは学校のコンシェルジュが旅行を企画して連れて行ってくれる。（Berkshire School）

【4】総 評

ボーディングスクールのハード・ソフト両方における充実ぶりに圧倒される期間であった。「スポーツ」発祥の文化的流れを汲んで海をわたってきた民族ならではの伝統、DNA、理屈ではない感覚を感じた。

スポーツがなぜいいか？という問いかけは存在しない。スポーツはいいものであり、人の成長に欠かせないものである。という伝統的思考やDNAがそのままハードとソフトを創らしめた。そのような感覚を覚える。

ボーディングスクールは、スポーツの教育的価値を最大価値化し、教育機関に導入したものである。これが「寮生活による市民性」や「専門的科目群による深く広い教養性」を育む教育と合わせ、全人格教育を目指す壮大なプログラムになっている。そして何よりもこうした教育効果、成長を求めて世界中から子供達が集まってくるという不変の流れは、国家戦略ではないか？と言われてもおかしくない程の完成度の高さを感じる。

「良き市民」育成を目指すこの背景には、自由・平等・博愛というキリスト教の精神があることは間違いない。理念を持ち高いリスクを冒して、この地を開拓してきた先祖の「想いを継承し、更なる繁栄を実現する子孫」に対する切実な想いや生命力を感じる。単なる教科教育に留まらない、正に生きるための教育という考えが表現されたプログラムである。

このようなプログラムにおいて、スポーツが占める割合は極めて高い。体罰や暴力等は論外であり、そもそも教員の成果設定が「勝ちを目指した勝ち」ではなく「勝ちを目指し、勝ちを得たり、逃したりする過程における価値」に定められている。そうした教育観とその実現力、コーチング力が教員に備わっているというところが着目すべき点であろう。

スポーツは日本の風土で生まれたものではない以上、日本にこの理念とシステムを持ち込むことは不可能であろう。しかし、日本には「道」の文化がある。それは武道であり、華道や茶道である。何か技芸を身につける過程は人の成長における「道」であり終わりのなき精進が自己の成長を促していくという精神をカタチにしたものである。こうした精神を教育というカタチで具現化していくことができれば、日本でも新しい文武両道教育が確立するのではないだろうか？

「勝って奢らず、負けて腐らず！」この言葉は勝ち負けを越えたところにある成長性を表現している。スポーツマンシップに通ずるものではないだろうか？本来大学体育の柱のひとつには、人間・人間関係教育がある。上記精神の学習を促進するための教授法は現場教員に課せられた永久の命題である。よく言われる「逞しい精神、豊かな心」の教授を本当にカタチにできる教授法を確立していく上で、ボーディングスクールや「道」の精神に学ぶことは多い。

21世紀も日本・世界がよりよいものとなるためには「人の育成」がすべてである。国の教育は一国の品格であり、一国の品格が世界を創っていく。できれば世界平和と繁栄に貢献できる人材を輩出できる国であり、大学でありたいものだ。

金谷 麻里子 筑波大学体育センター 准教授

桐生 習作 筑波大学体育センター 特任助教

武田 丈太郎 筑波大学体育センター 特任助教

齊藤 克明 株式会社イーコンシェルジュ代表取締役

【5】 参考資料

NEPSAC 倫理・行動規範

「NEPSAC」について

正式名称「New England Preparatory School Athletic Council」アメリカ北東部ニューイングランド地方でボーディングスクールを対象としたスポーツ大会等を管理する団体（150以上の加盟校をもつ）で、日本語の名称として「体育連盟」「体育会議」「体育協議会」等々となる。

※本資料は、NEPSACが発行する CODE OF ETHICS AND CONDUCT」（NEPSAC倫理・行動規範）の一部を訳したものである。

※訳の基準

- 「code」：「規範」
- 「standards」：「基準」
- 「guidelines」：「ガイドライン」
- 「behavior」：「行為」
- 「conduct」：「行動」
- 「student」：「学生」

（対象年齢を考慮すると「生徒」とすべきところか迷ったが、「学生」とした）

- 「players」：「選手」（「athletes」も同様に「選手」とした）
- 「coaches」：「コーチ」
- 「officials」：「競技役員」
- 「spectators」：「観客」
- 「game」：「試合」
- 「athletics」：スポーツ競技

NEPSACは、基本理念として、試合や練習を含めフェアプレイでスポーツ競技を行うことから学んだ教訓は、学校対抗であるか否かにかかわらず、NEPSACの学生および加盟校に利益をもたらすものとする。本倫理・行動規範は、「フェアプレイ」とは何かを定義し、NEPSACの選手、コーチ、競技役員および観客等が従うべきガイドラインを規定することを目的とする。

1. 適正な行動と善きスポーツマンシップ

本規範の中心には、多くの場合、公平・公正な基準を設定することと同様に定義することが難しい（しかも、教員やコーチが直面する重要な役割にかかわる）文言がいくつかある。本規範全体を通じて、「適正な行動」や「善きスポーツマンシップ」等の文言が記載されている場合、それは下記の基準で言及されるものである。

- 1) ご承知のとおり、他の人と接する際は然るべき態度で、また自らが相手に望む公平な接し方で臨むこと。
- 2) 参加する試合のルールを契約とみなし、その精神と字義を回避・無視することなく遵守すること。
- 3) 競技役員や対戦相手に敬意をもって接すること。
- 4) いずれの競技役員の最終決定についても、異議を唱えることなく全面的に受け入れること。
- 5) 来訪チームや訪れた観客を自分のゲストとして迎える際にはふさわしい態度で接すること。
同様に、自分が他校を訪問する際にはゲストとしてふさわしい振る舞いをする。
- 6) 勝っても負けても潔くあること。特に、負けたことを良い方に解釈することを学ぶこと。
- 7) 対抗意識をもつと同時に協調的であること。
- 8) 競技場内外での自己の行為が自分自身や自分の学校の評価に反映されることを忘れないこと。

2. 加盟校におけるスポーツ競技の目的

スポーツ競技は第一に、学生の総合教育の一環として不可欠なものといえる。教育課程としてのスポーツ競技は、下記の目的に適うものである。

- 1) 様々な個人・チーム競技のルール、基礎および技能について学生を教育・指導すること。
また、身体的トレーニングを通して思春期の身体的エネルギーを発散する機会を提供すること。
- 2) 学校内や学校間で健全な競争力・協調性を養い、それによって学生一人一人に善きスポーツマンシップの最も重要な原理を教え込むこと。
- 3) 学生一人一人の教育に役立つと考えられる、善きスポーツマンシップの他の側面についても養うこと。
- 4) 真のアマチュアとしての競争心を維持すること。

3. 中学校における競争心

コーチは、中学校における競技のルールに従うとともに、適切な競争心をもって競技に臨むことが求められる。NEPSAC倫理規範では、試合中のすべての行為の基本となる枠組みを規定している。さらに、中学校のコーチには、両チームの選手、コーチ、競技役員および観客など関係者全員にとって試合が有意義な体験となるよう意図的に仕向けることも求められる。これには、自らのチームと指導的な役割を果たすとともに、行為の基準を定める意味がある。スコアがどんどん加算されていくこと、バスケットボールの試合で結果が極めて明白なときにプレスし続けること、スコアが一方的になっているときにチーム内の初心者グループで参加させること、パスやセット攻撃を重視するよりも速攻スタイルの競技を継続することなどはすべて、中学校における競争の目的とする精神に適合しない指導戦略の例といえる。

4. コーチ用ガイドライン

- 1) コーチは、学校におけるスポーツ競技で最も重要なのは学生一人一人の教育であり、スポーツ競技自体が目的ではないということを忘れてはならない。コーチは、スポーツ競技を通して学生一人一人が上記基準を達成するための手助けをする。
- 2) コーチは、スポーツ競技において学生一人一人がその可能性を最大限に高められるよう支援する。
- 3) コーチは、スポーツ競技に対するコーチ自身のマナー、姿勢、感情、取り組み方がチームの行為に反映されるものであることを忘れてはならない。また、コーチ自身、コーチ率いるチーム、所属する学校、携わるスポーツに誇りをもてるよう行動する。
- 4) コーチは、競技役員との対応を公正かつ適正に行うとともに、試合の前後にコーチや選手と会合しこれらを訪問し、善きスポーツマンシップにふさわしい客観性やバランス感覚を保持しながら、自らのチームの指導だけでなく試合運営についても責任を負うものとする。コーチは、特にゲーム・試合終了後に握手を交わす伝統的習慣を守る。

5. 選手用ガイドライン

- 1) 選手は常に、名誉、適正な行動、善きスポーツマンシップをもって選手とその学校を代表する。また、対抗意識をもって競うことが奨励される一方、対戦相手への敬意を欠くことはスポーツマンシップに反するとともに、競うことの意義を低下させることを理解する。選手は試合での競争力を競技場でのみ発揮し、特に試合の前後にサイドラインの外側やロッカールームにおいては適正な行動をとる。
- 2) 選手は競技役員の決定に完全に従うものとする。発言、行動またはジェスチャーのいずれによっても、決定に対する不満を明示してはならない。
- 3) 選手は自分の学校や他校の所有物を破損せず、また、当該学校のいかなる備品についてもこれを持ち去らない。

6. 競技役員（有給）用ガイドライン

- 1) 競技役員は、試合時間に十分余裕をもって学校に到着し、コーチや他の競技役員と連携をとるとともに、時間通りにゲームを開始できるよう準備を行う。
- 2) 競技役員は、服装、行動、試合のルールについての知識において、本倫理・行動規範の目的を模範的に示す。
- 3) 競技役員は、技能・経験不足、未熟さゆえに逸脱した行動をとる若い選手に自身を取り巻く状況について理解させ、忍耐を促す。
- 4) 競技役員は、エネルギーとスピードの面で自己の能力を最大限に発揮する。当連盟は競技役員に対し、試合のレベルや謝礼の金額にかかわらず、常に全力を尽くすことを求める。

7. 観客用ガイドライン

- 1) 観客は、学生、教職員、保護者、卒業生または友人のいずれかを問わず、またホーム、アウェイに関係なく、学校と試合中の行動やその雰囲気に対して重要な責任を負う。
- 2) 観客は、各学校が観戦の場所として定めた場所から試合を観戦しなくてはならない。観客は、サイドラインを駆け上がる／駆け降りる、スポーツマンシップに反するマナーで選手、コーチまたは競技役員に呼びかける、競技場内に立ち入る、所有物を破損する等の行為をしてはならない。全力を尽くそうとしているコーチ、選手および競技役員を邪魔する行為は容認されない。
- 3) 教職員は、学生の規律や行為に対する自己の責任が、観客として無作法な振る舞いをした学生に規律を守らせたりこれを統制したりすることにまで及ぶことを忘れてはならない。
- 4) いかなる競技種目においてもアルコールや違法薬物を使用してはならない。

NEPSACは、すべての選手、コーチ、競技役員および観客に対し、上記基準に適合することを求めるものである。

◇除名規定◇

「スポーツマンシップに反する行動」、その他目に余る行為を理由に対抗試合から退場を命じられた選手／コーチは、次回定期開催される当該スポーツの対抗試合またはトーナメント試合において競技／指導する資格を喪失する。NEPSACは、体育局長、コーチおよび資格を喪失した違反者間で話し合いが行われることを奨励する。

午後プログラム (AFTERNOON PROGRAM)

スポーツマンシップはアカデミーの選手と観客の両方において評価される素養です。以下は、ニューイングランドプレップスクール競技連盟 (New England Prep School Athletic Conference, NEPSAC) が規定した倫理行動規範のガイドラインです。全生徒がこれを順守することを期待します。

- ・ あなたが知る相応しい対応で、自分が扱って欲しいと思うような対応で他者を扱うこと。
- ・ 審判員と対戦相手に敬意をもって接すること。
- ・ 言い争いをせず、何であれ審判員の最終決定を受け入れること。
- ・ 自分のゲストとしてビジターチームと観客に尊敬の念を持ち、そのように彼らを扱うこと。
- ・ 勝利と敗北に礼儀正しくあること。
- ・ 競争的であるのと同じくらい協力的であること。
- ・ フィールドの中と外での自分の行動が、自分と学校としてのWMAに反映されることを忘れないこと。

〈6-8年生〉

WMA中学校の生徒は午後プログラムに参加する必要はありません。しかし、学校は生徒が選ぶ沢山の選択肢を提供します。WMA中学校の生徒のための運動競技の選択肢には、秋の男子／女子サッカー、冬の男子／女子バスケットボール、春のライフスポーツや、ゴルフ、水泳、ハイキングなどを取り上げる共学選択肢などがあります。

WMA中学校の生徒は、中学校では提供されない上級学校の二軍または代表選手スポーツのテストを受ける資格があります。上級学校スポーツへの中学校の生徒の参加には、両親の許可と中学校管理者の承認の両方が必要です。WMA中学校の生徒は、前シーズンに参加した練習には参加できません。

また、上級学校スポーツがWMA中学校のプログラムと対立する場合には、WMA中学校のプログラム義務が優先されます。また、WMA中学校の生徒は、その日に予定される練習または試合のどちらかの参加の許可を受ける前に、中学校の全ての必要条件を満たす必要があります。

WMA中学校の生徒は、GMES (Girls Engaging In Math And Science [訳者注：女子のための数学と理科の活動])、生徒会、ループ・ゴールドバーグ、レゴロボット工学、ToyChallenge、コーラス、イヤブック[訳者注：卒業写真のような毎年発行の学生写真集]/ニュースレター、器楽グループなど、追加の活動機会を利用できます。

生徒が放課後のスポーツまたは活動に参加せず、学校の時間終了時に迎えが来ない場合には、生徒は月曜、火曜、木曜、金曜日の午後3：30から4：45と水曜日の午後1：00から2：15にGriffinルームにある放課後自習室に参加しなければなりません。

〈9年生～卒業後〉

アカデミーの信条に関連して、本校の午後プログラムの必要条件は、健康、活動的なライフスタイルを発展させることに重点を置いており、またキャンパスの内外両方で仲間と互いに交流し合うべきであるという、本校の信念と一致しています。運動活動から得られた経験は生徒達に有益で、力強い知性、身体、精神を作り上げるために必要な技術、態度、習慣の発達を可能にする重要な役割を果たすと私達は考えています。

従って、以下の必要条件が適用されます。

9年と10年と新しい11年の全生徒は競争的スポーツに3シーズン参加しなければなりません。復帰する11年生と卒業予定クラスのメンバー（最上級生と卒業後の生徒）は、最低2シーズンの競争的選択肢に参加しなければなりません。他のシーズン中は、3番目のシーズンの競争的選択肢に参加するか、非競争的スポーツまたは活動の一つを選ぶことができます。

生徒は毎日参加する必要があり、出席を毎日取ります。更に、全ての活動、すなわち競争的および非競争的活動は、学期あたり最低5回、土曜日のミーティングへの参加義務、またはそれに相当する義務があります。

生徒はアカデミーのプログラムに参加し、仲間の生徒達や教師と互いに交流し、WMAコミュニティに貢献するよう努めるべきであると私達は考えます。この方針の例外は、非常に限られた場合のみに認められ、特別に高いレベルのスポーツで競合する場合に限られます。この例外は、直接、書面で9月9日までに運動競技主任に要求しなければなりません。

競争的科目

秋	冬	春
クロスカントリー（男／女）	バスケットボール（男／女）	野球（男）
フィールドホッケー（女）	ダウンヒルスキー（共）	ゴルフ（共）
フットボール（男）	ライフル射撃（共）	ラクロス（男／女）
サッカー（男／女）	スノーボーディング（共）	ラグビー（男）
バレーボール（女）	水泳（共）	ソフトボール（女）
水球（共）	冬季トラック競技（共）	テニス（男／女）
	レスリング（共）	トラック・フィールド（共）
		バレーボール（男）
アカデミー選手*	アカデミー選手*	アカデミー選手*
ダンス*		ダンス*

*オーディションによってのみ参加可能。

非競争的科目

これらの選択肢は、11年生に復帰する生徒と卒業予定クラスのみ参加可能です。

- ・ 社会奉仕（秋、冬、春）
- ・ フィットネス（冬）
- ・ 野外アドベンチャー（秋と冬）
- ・ スポーツマネージャー（秋、冬、春）
- ・ 太極拳（冬）
- ・ テクニカルシアター（秋、冬、春）
- ・ 「The Hill」WMAイヤーズブック（秋、冬、春）

〈プレイレベルの決定〉

全生徒がテストに参加しなければならず、適切なプレイレベルに配置されます。配置の最終決定はヘッドコーチが行います。

〈部長協議会〉

部長協議会は、運動競技主任の助言を受け、現学期のチームのキャプテンで構成される、運動競技に関する諮問委員会です。

〈変更方針〉

生徒は各学期の最初の1週間に、運動競技／活動義務を変更することができます。一部の例では（例えば、代表チーム、JV [訳者注：2軍]のカット）、変更がさらに長く掛かる可能性もあります。学生がこの期間中にスポーツ／活動に報告をしない場合、学生は不在であった日は無断欠勤となります。

〈欠席方針〉

学校は、生徒が、ミーティング、練習、および競技などの全ての活動／運動競技義務に参加することを期待します。無断欠勤が4回以上となった場合、そのスポーツまたは活動は落第となります（落第方針を参照）。

さらに、運動競技または活動のあらゆる無断欠勤は、生徒がプールでの午前6:00の1時間水泳練習に参加する必要があります。生徒が運動競技主任または副主任に書面による説明（通常は医学的説明）を欠席の**48時間**以内に提出しない限り、欠席は無断欠席と見なされます。学生部長室は運動競技と活動の理由は受け付けません。学生が学校を全日欠席の釈明がある場合には、運動競技または活動も釈明されたものとしします。

医師の診察を受けたあらゆる生徒は、診断、身体的制約、および生徒が運行活動を再開できる日付を記載した医師からの手紙を運動競技トレーナーに提出しなければなりません。**両親からの手紙または電話を医師の手紙の代わりに受理することはありません。**怪我をした生徒は全ての練習と競技に出席しなければなりません。もし怪我をした生徒が練習や試合に出席しない場合は、各欠席は無断欠席と見なされます。

医療サービスにより午後の義務へ活動的な参加を免除された生徒は、コーチまたはアドバイザーに看護師の手紙を提出し、割り当てられた時間の間、活動または練習に留まらなければなりません。

〈午後の練習〉

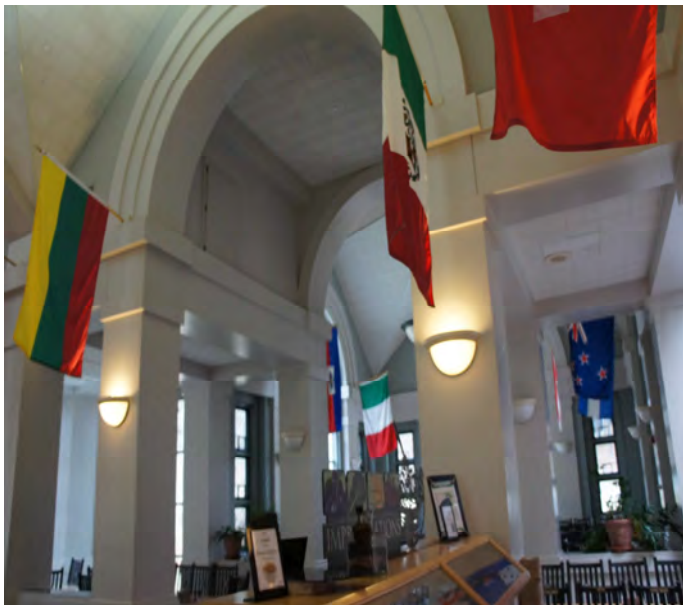
生徒は午後の運動競技と活動に参加する日は、授業の過半数、すなわち平均的な授業日の7コマ中4コマに出席しなければなりません。

〈 試合日と欠席 〉

試合日に参加するためには、生徒は毎日の全授業に出席しなければなりません。有効なおよび／または正式な書類により欠席を届け出た生徒は、午後の競技に参加することができます。例えば、医学上の理由による届け出欠席は、医師からの書面による手紙を提出されなければなりません。大学訪問には、大学カウンセリング室からの正式承認を提出する必要があります。

試日の欠席は、2回分の無断欠席と勘定され、午前6:00の水泳練習2回が課せられます。あらゆる組み合わせで計4回無断欠席した場合、そのシーズンの運動競技または活動は落第となります。

届け出た場合でも、無断の場合でも、1学期中に運動競技または活動を8回またはそれ以上欠席する場合には落第となり、その生徒は単位について運動競技主任に請願しなければなりません。欠席があるパターンを示す生徒は、アカデミーから退学となる可能性があります。



2011-2012年度 チェシャー・アカデミー運動競技部門方針変更

2011-2012年度の2シーズンのチームスポーツを義務づける本上級学校の必要条件の目的は、生徒がさらに活動的に運動に参加し、身体的な成長をもたらす運動を行うように、またチームプレイをより一層理解し、新しい挑戦に向かう素晴らしいプライドを持ち、コミュニティと校風に対する素晴らしい感覚を身につけることです。運動に大きな重点を置くことで、より健康な生徒、より健康な卒業生を生み出すに違いありません。

この新しい学校対抗必要条件の要点は以下の通りです。
チェシャー・アカデミーでの数年を通じて、生徒は最低限、年に平均して2種目の競争的シーズンを完了する必要があります。例えば、1年次と2年次に3シーズン全て、3年次に2シーズン（合計8シーズン）競争的に参加する1年の生徒は、アカデミー在籍中の競争的スポーツは基本的に免除されます。

全生徒が卒業までに一定量の社会奉仕を行う必要があります。その量は、今年のある時点で決定されます。競争的必要条件を満たした学生は、まだ各シーズンの午後プログラムに参加する必要がありますが、社会奉仕を完了するための、またはその他の興味を探るための機会がより多くなります。

1年次と2年次の全生徒は、それぞれの粘度に最低2シーズンを完了する必要があります。オーディションや季節公演を伴うダンスや演劇などの活動は、嘆願が提出されない限りは、第2シーズンを除いて所定の年度中に**最大1シーズン**が考慮されます。

競争的チームのマネージメントは、1シーズンの参加を満たします。

全ての午後プログラムは、毎週、身体的に活動的な要素を組み込みます。
運動競技主任と独立プログラム委員会の承認待ちであるのは、アカデミーが提供しないアイスホッケー、フィギュアスケート、体操、武術、競争的チアリーディングなどの特定プログラムであり、1シーズンの参加が受諾され、単位を受けることができます。

競争的学校対抗オプションは次の通りです。

秋	冬	春
フットボール	バスケットボール-共学	トラック-共学
サッカー-共学	水泳-共学	ラクロス-共学
バレーボール-女子のみ	レスリング	野球
フィールドホッケー-女子のみ	フェンシング-共学	ソフトボール
クロスカントリー-共学	アーチェリー-共学	テニス-共学
		究極・ゴルフ-共学

チェシャー・アカデミーにおけるコーチへの期待 (プロ意識、献身、プライド)

- 当校のフィールドやコートは、当校で目に触れる機会が最も多い側面です。コーチとして私達がどのように行動するか、常に誰かが見えています。ですから、いつもプロフェッショナルであって下さい。
- 生徒の感情的、および身体的福祉は、常に何よりもまず第一に重要です。**運動競技は楽しい経験であるべきです。**
- **どうか連絡を取って下さい！**何か問題が生じた場合に、選手とその両親、アドバイザーと連絡を取るのはコーチの仕事です。同僚のコーチや運動競技部門との連絡については、プロフェッショナルであって下さい。手に負えなくなる前に、それについて話しましょう。そして、「**まず家庭に電話が成功のもと**」ということ覚えておいて下さい。
- 練習の計画：円滑に進行するように練習を十分に準備して下さい。様々なコーチが様々な方法を行いますが、全てのコーチが毎日の練習と試合の計画を立てなければなりません。**一番重要なことは、生徒を動かし続けることです！**
- 落雷：その地区で落雷の恐れがある場合、生徒達とあなた自身を屋内またはシェルターに直ちに移動させて下さい。不確かな状況の場合には、JennまたはBrettに連絡して下さい。
- 何らかの遠征イベントであなた自身または生徒達が安全でないと感じる場合、まず私かAODに連絡を試み、助言を受け、競技中、大会中、試合中を問わず、キャンパスに戻る決定を下して下さい。**安全第一です！**
- 服装規定：遠征試合に移動する場合、学校規定の服装または試合のユニフォーム／ウォームアップ用のウェアを着ます。試合中、フィールドまたはコート上ではコーチとして学校規定の服装またはチェシャー・アカデミーのコーチの服装である必要があります。キチッと決めて、それらしく見えるように。
- コメントや子供達との会話には注意を払って下さい。あなたは大人で、どこに線を引くか知る必要があります。他の大人と会話する場合、誰が周りにいるか、誰かが聞いている可能性があるか必ず承知しておくようにして下さい。
- ハラスメント：あなた自身が異性の生徒だけと一緒にいなければならないような状況に決してしないように。生徒やまた同僚に言葉をかける場合には、言葉選びに細心の注意を払って下さい。様々な成り行きでハラスメントと見なされる恐れがあります。ですから、生徒であれ大人であれ、他者に対処する場合には優れた判断を働かせて下さい。
- 監督：子供達を完全に監督がない状況（例えば、試合後の中学生の迎え）に放置しないよう確認して下さい。

- 学校の車両：スピード制限と交通規則に従って下さい。ルールの一つは、車内の全員がシートベルトを着用しなければならないということです。学校の車両を運転しているときでも、コーチ自身の行動はコーチ自身に責任があります。バンに関するどんな問題または懸念でも、施設または運動競技部門に直ちに報告して下さい。運転する前に、何らかの損傷または故障した機能があれば報告できるよう、学校の車両の徹底した点検を必ず行って下さい。教員の一員として、校長の特別許可を受けるまでは、遠足や、週末のプログラムまたはスポーツであろうとなかろうと、学校の機能のために学生を移送できるよう、あなたはバンのライセンス取得に責任があります。運転する際には、車を各遠征の終わりに学校に戻る前に車両に燃料を満タンにして下さい。町の北の10号線沿いのCITGOに学校の口座があり、バンのライセンスを持つ学校関係者はそこで学校の車両を満タンにすることができます。ガソリンタンクを半分未満の状態ですべて車を学校に戻さないで下さい。最後に、車の窓を開けたまま、または車のドアを施錠せずに車を決して離れないこと。常に、バンのゴミ、備品、所有物を必ず清掃するようにする。
- 設備：Jerry Shanok設備マネージャーは私達にとって大きな影響力がある財産です。良い印象を与えるように、彼に敬意を払って連絡を取り、利用して下さい。彼が何か確信を持てないことがあれば、彼は私に確認するか、彼自身で調べます。ユニフォームは次のイベントのために準備できるよう毎回の競技後に返却する必要があります。マネージャーと選手は設備と用具に関して、私達が設備エリアから物事を円滑に進めることができるように、毎日、手伝う必要があります。JerryマネージャーのOffice、設備室の収納エリアは学生と運動競技部門の特別許可を得ていない大人は立ち入り禁止です。
- トレーニングルーム：トレーニングスタッフが作成した別の手順があります。
- 審判員の支払い：ホームでの試合では、審判員に支払い表に記入してもらうよう確認して下さい。毎回の試合の救急セットの中に入っているはずです。
- キャプテン：代表チームはコーチの指示でキャプテンを選出します。JV（二軍）、三軍およびMSチームは、選出することもまたは試合で決めることもできます。コーチ次第ですが、私に知らせて下さい。
- 専門的能力の開発：予算がありますからこれを活用して下さい。活用の機会を検討して下さい。コーチが試聴可能なビデオがいくつかあります。また私はこのライブラリーを構築し続けたいと思っていますので、お持ちのトレーニングテープ／本の寄付をお願いします。または私が購入すべき物がありましたら提案して下さい。
- フィットネスセンター／プールの利用：18歳未満の生徒は大人の監督なしにフィットネスセンターを利用することは禁じられています。また、私の許可と勤務中の有資格ライフガードなしにプールに入ることも禁じられています。チームでフィットネスセンターを利用する場合には、コーチが子供達を監督しているか、JennまたはPamがそれで差し支えないと思うかどうか確認して下さい。

- 出席：出席はヘッドコーチの責任です。毎日、練習後にヘッドコーチまたは指名された助手が授業で行うのと同じ方法で電子的に出席をとります。生徒がチームに委ねられた時点で登録選手名簿が確定し、生徒は全てのチームイベントに参加することが期待されます。これが重要な問題になる場合は、生徒は私、アドバイザー、ヘッドコーチに面会し、計画を工夫します。午後プログラムの出席は必須です。
- 費用：チームの遠征中の食事の費用がコーチに与えられます。遠征から戻ったら、運動競技部門のドアのカギ返却口か私に直接に全ての釣り銭を戻して下さい。何らかの理由で、遠征で個人的なお金を使った場合には、払い戻しができるように領収書を保管する必要があります。領収書が無い場合には、一切、払い戻しを約束することができません。多額の費用については、支払いをする前に私に確認して下さい。
- AOD：遠征中、帰還が予想よりも遅くなるようなことが起こった場合、食堂と寮父寮母に警告できるようにAOD（203-627-0145）に直ちに電話して下さい。
- 義務：何らかの理由で試合に参加できない場合、事前に私に連絡し、何とかして代理コーチで代わりをするよう努めて下さい。練習はまず私からの承諾なしにキャンセルはされません。
- 代表チームのコーチは、大学カウンセリングオフィスと協力して、必要に応じて大学進学プロセスにある支援する学生選手の期待を満たす責任があります。Dan O'Deaがそのカウンセリングオフィスの連絡窓口です。彼を信頼して、大学進学プロセス中の選手を支援して下さい。また、必要な方法が何であれ、コーチ、特に代表チームのヘッドコーチは入学手続きを快く手伝うことが期待されています。
- 全てのチームはチームページを持つことが期待されています。通信部門の予約の予定を決め、ページをセットアップし、常に最低でも各競技会での最新のスコアを掲載し更新するのはヘッドコーチの責任です。また、チームページに加えていくつかハイライトの記事を加えるのは、いつでも素晴らしいことです。
- スコアの報告---これは学校に与えられる最高のPRの機会です。代表チームはウェブサイトを更新すると共に、競技会の結果をEメールでscores@chesireacademy.org宛てに報告する必要があります。全てのチームは、スコアをチームのページに各協議会後の午後10時までに報告することになっています。

これらの期待に従うことに同意し、本文書に説明されている方針を理解するのであれば良いですが、もし何らかの理由で不明瞭である場合には、時間を取って私に尋ねて、シーズンが始まる前に明確にして下さい。

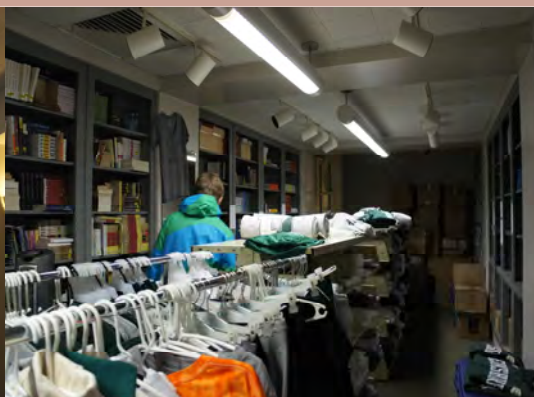
チェシャー・アカデミー運動競技部門の期待などの順守いただくことに感謝します。

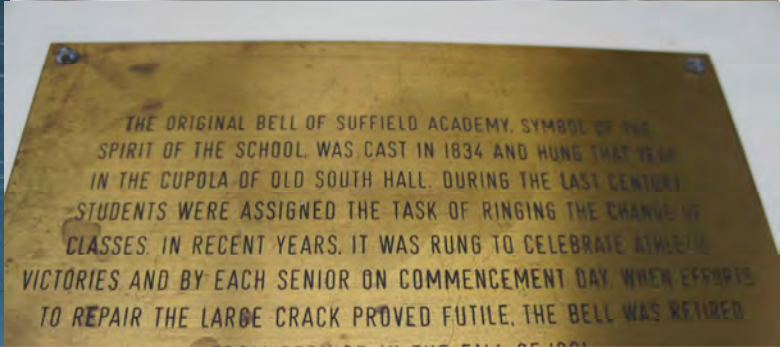
素晴らしい1年を過ごしましょう。

運動競技部門



Berkshire





Suffield Academy





The Taft School



*ASK NOT
what your country
can do
FOR YOU~
ASK
what you
can do
FOR YOUR COUNTRY.*



Choate Rosemary Hall





St. Thomas More School



米国東海岸周辺地域の
ボーディングスクールにおける
スポーツ教育の実態

2012年3月31日 発行

著 者 松田裕雄・金谷麻理子・桐生習作・武田丈太郎
斎藤克明・向後佑香・小倉晃布
発行所 株式会社シーアンドシー

本調査および報告書の発行は、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究A「知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践的研究」（研究代表者：宮下 憲）による。